長崎県文化財調査報告書 第150集

長崎県埋蔵文化財調査年報６

〔平成９年度調査分〕

１９９９

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県教育委員会では，県下で行われた発掘調査のなかで，県が中心となって調査を行った遺跡の概要を平成４年度から年報として刊行しております。平成９年度も多くの発掘調査が行われ，大きな成果をあげることができました。

これらの発掘調査は増加する種々の開発に伴うものが多く，各開発部局との協議の結果，計画変更・工事面積の縮小といった遺跡保護・保存の努力もいたしております。また，近年各地で遺跡整備の動きが盛んになり，整備のための発掘調査も実施しております。

今後とも，埋蔵文化財の保護・保存への御理解をお願いいたしますとともに本書がそのための一助になれば幸いです。

最後になりましたが，本書刊行に際して御協力をいただいた関係各位に厚く御礼申し上げ，御挨拶といたします。

平成11年３月

長崎県教育委員会教育長　　出口　啓二郎

例　　言

1．本書は，長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と，長崎県教育委員会が平成９年４月１日から平成10年３月31日までに実施した26箇所の発掘調査の概要を収録したものである。

2．平成７年度分より壱岐・原の辻遺跡調査事務所関係の発掘調査については，調査事務所の調査年報に概要を収録することになっている。

3．各遺跡の調査担当者と調査概要の文責については，各々の文末に記した。

4．本書の編集は県教育委員会文化課文化財保護主事小松旭が行った。

本　文　目　次

はじめに

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状 …… 1

二　県の事業について …… 1

三　県内の研究活動について …… 4

四　調査の動向 …… 5

五　長崎県教育委員会発行調査報告書一覧 …… 12

六　平成４年度から平成９年度の開発事業別発掘等件数・県市町村別職員数 …… 14

Ⅱ　各遺跡の調査概要

平成９年度長崎県内発掘調査箇所市町村別位置図 …… 15

①クワバル古墳（豊玉町）…… 16

②水崎遺跡　（美津島町）…… 17

③金田城跡　（美津島町）…… 18・19

④金石城跡　（厳原町）…… 20

⑤馬乗石遺跡　（厳原町）…… 21

⑥茶園遺跡　（岐宿町）…… 22・23

⑦城岳城跡　（奈留町）…… 24・25

⑧石田城跡　（福江市）…… 26

⑨長畑馬場遺跡（大島村）…… 27

⑩水ノ元遺跡　（大島村）…… 28

⑪菰蓋池遺跡　（大島村）…… 28

⑫岳崎古墳　（田平町）…… 29

⑬岳崎遺跡　（田平町）…… 30

⑭広久保遺跡　（江迎町）…… 31

⑮串田池遺跡　（吉井町）…… 32

⑯泻脇遺跡　（鹿町町）…… 32・33

⑰関里遺跡　（鹿町町）…… 33

⑱玖島城跡　（大村市）…… 34

⑲稗田原遺跡　（島原市）…… 35

⑳長戸鬼塚古墳　（小長井町）…… 36・37

㉑山の寺梶木遺跡（深江町）…… 38

㉒蒲河遺跡　（有家町）…… 39

㉓国崎遺跡　（南串山町）…… 40

㉔辻貝塚　（加津佐町）…… 41

㉕長崎奉行所（立山役所）跡（長崎市）…… 42・43

㉖城山城跡　（長崎市）…… 44

Ⅲ　平成９年度長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表 …… 45

Ⅳ　平成９年度長崎県内市町村別調査一覧表 …… 48

Ⅴ　平成９年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）…… 52

Ⅰ　長崎県の埋蔵文化財の動向

一　埋蔵文化財保護行政の現状

平成９年度に提出された開発事業等に伴う発掘届け数は185件で，その内工事立会と慎重工事を除く，133件が試掘確認調査・本調査の対象となっている。この中には市町村が事業主体となって実施している国史跡整備関係調査５件は含まれていない。

事業別に見ると，これまで多かった住宅・宅地造成にかわり，農業基盤整備関係が圧倒的に多くなっており，宅地造成や住宅建設関係と道路関係事業がこれに次いでいる。この３種で全発掘調査数の54％を占めている。

一方，県内における埋蔵文化財関係職員数は，県では県文化課14名（１名は町からの派遣職員）・壱岐原の辻遺跡調査事務所６名の計20名（内嘱託３名）である。また，市町村には８市20町に41名（内嘱託19名）が配置されている。配置率は35％であり，全国平均の45％に遠く及ばない。

市町村事業は増加傾向にあり，専門職員がいない町村の事業にあっては現在県が肩代わりを強いられているのが現状であるが，県の単独事業も多く，今後は十分に対応出来ない事態になることは明らかである。

専門職員未配置の町村にあっては，増員が難しい昨今ではあるが，その配置に努力していただく他に方法がない。

表１　平成９年度
開発事業別発掘届出件数

	区　分	件数
緊急調査	道路	12
	河川	1
	港湾	1
	ダム	1
	学校建設	3
	住宅	4
	個人住宅	4
	工場	4
	個人店舗	2
	その他建物	11
	宅地造成	6
	公園造成	2
	ガス等	5
	農業基盤整備	33
	農業関係	1
	その他開発	7
	自然消滅	1
計		102

二　県事業について

本県が平成９年度に行った主な事業は以下のとおりである。事業別にその概要を説明しておく。

１　埋蔵文化財緊急調査（表１）

周知の埋蔵文化財包蔵地における県下各地における開発事業による発掘調査届出件数は102件である。

これらの内，基本的に範囲確認調査を実施したのは34件であり，残りは工事立会と慎重工事ということになる。さらに，範囲確認調査の結果，本調査実施件数は16件であった。

その主な遺跡については本書に収録しているとおりである。

2　埋蔵文化財普及啓発活動の推進

①埋蔵文化財発掘技術研修

・基礎研修Ⅰ

基礎研修Ⅰは，特に県・市町村の開発担当部局の関係職員に対して，文化財保護法の解説及び開発と遺跡の取り扱いについての調整・協議等の説明や文化財保護・保存についてのお願いをしている。

今年度も各教育事務所管内６地区において研修を実施し，県・市町村部局担当職員，及び各市町村教育委員会職員合わせて156名の参加を得た。

・基礎研修Ⅱ

県内市町村の埋蔵文化財担当職員についての研修であるが，今年度は11月19日～21日まで，壱岐・原の辻遺跡において，トータルステーションを使用した地形測量・遺構測量・遺物とりあげ等を行った。参加者は16市町村から16名の参加があった。

・専門研修

県下市町村文化財担当者職員や教職員，県文化財保護指導委員，県・市町村文化財専門委員などを対象とする研修である。今年度は８月20日（水）～22日（金）にかけて，天理大学附属天理参考館の金原正明先生による「環境・農耕・トイレの考古学」と長崎大学教育学部助教授の長岡信治先生による「長崎県の地形・地質と考古学」の講義があった。

参加者は以上の人達を中心として72名の参加があり，好評の内に終了した。

・長崎県市町村文化財担当者会議

各種研修の他に，県下市町村文化財担当者が一同に会して行う事務連絡と協議を中心とする会議で，９月19日（金）長崎市県庁新別館で開催した。今年度は，①伝統文化伝承総合支援事業について②長崎県埋蔵文化財調査に関する労働衛生安全基準について，③出土品の取り扱いについて等の説明を行った。参加者は各市町村教育委員会職員，県教育事務所担当職員等87名であった。

・公共工事と埋蔵文化財保護にかかる連絡調整会議

県では，公共工事に係る埋蔵文化財の適切な取り扱いを行うため，県関係の公共工事担当部局との定期的な連絡調整の場を設けることとした。

今年度は第１回目として，12月19日（金）長崎市の勤労福祉会館で開催し，建設省・県水産部・県農林部・県土木部・警察本部・各開発公社等33部局に対して趣旨の説明を行った。

これ以後，各公共工事担当部局においては，事業実施予定の前年度までには全ての事業計画書を文化課に提出することとなった。

3　ふるさと古代遺産保存継承事業

①主要遺跡内容確認調査

県内には3,700箇所あまりの埋蔵文化財包蔵地が周知されているが，この内155の遺跡については，本県の特質をよく伝える重要な遺跡として把握している。しかし，それらの遺跡についても，その内

容が十分とはいえない面もあり，僅かづつであるが，緊急度や地域性などを考慮しながら内容確認調査を継続している。

今年度は田平町の岳崎古墳と深江町の山の寺梶木遺跡について実施した。岳崎古墳は昭和58年，地元の研究家によって発見された前方後円墳で盗掘された形跡がない，いわゆる処女墳である。

山の寺梶木遺跡は昭和30年代に西北九州特別調査委員会で初めて発掘調査されて以来，九州の縄文晩期を代表する標識遺跡として有名である。以上の調査結果については，本年度の「主要遺跡内容確認調査報告書」に詳しい。

②タイムスリップたんけん隊

親子による遺跡の体験発掘事業で，平成８年度から実施している。今年度は，８月９日（土）に小値賀町相津遺跡，10月11日（土）に田平町岳崎古墳，11月８日（土）に南有馬町原城跡での実施予定であったが，台風接近のため小値賀町での実施は中止を余儀無くされた。今年度は２遺跡100名以上の参加者があり，好評のうちに終了した。

タイムスリップたんけん隊（原城跡）

③「原始・古代の長崎県　通史編」編纂事業

平成７年度から３年計画で開始した「原始・古代の長崎県」編纂事業は，資料編Ⅰ・Ⅱに続き，通史編の刊行をもって事業が終了したことになる。長崎県史で欠落していた「原始・古代」編であり，これで名実共に「長崎県史」が完結したことになる。通史編は，当初長崎県の遺跡を精力的に調査されてきた，各大学教授を５名を中心として編纂される予定であったが，執筆時間の制限から最終的には県文化課職員を加えた18名で執筆することとなった。内容の詳細は当該書を参照されたい。

４　原の辻遺跡保存整備事業及び保存活用事業

平成９年度における原の辻遺跡に関する事業としては管理運営・保存活用事業と発掘調査事業に大別される。

①原の辻遺跡展示館の管理運営

・事業内容としては展示館の管理運営が主である。

②保存活用事業としては以下の事業が含まれる。

・調査指導員会の開催

年に２回開催される委員会で，指導委員としては佐原　真：国立歴史民俗博物館長，小田富士雄：福岡大学教授，西谷　正：九州大学教授，宮本長二郎：東京国立文化財研究所，日野尚志：佐賀大学教授，沢田正昭：奈良国立文化財研究所，松井　章：奈良国立文化財研究所，小池伸彦：文化庁の８名から構成されている。

・事務所要覧印刷

・木簡，諸手鍬，えぶり，櫛，梯子等の展示用遺物の保存処理や複製

・船着き場遺構模型制作

・発掘記録のビデオテープ制作

・出土品保存活用施設の建設

膨大な出土遺物を新たに収蔵するためや，普及活動室，保存処理室等の施設として約600㎡のプレハブを建設する。

・シンポジウムの開催

原の辻遺跡を広く周知させる目的での事業で，今年度は平成10年１月24日（土）東京都有楽町朝日ホールで開催した。タイトルは平成８年度と同じく「魏志倭人伝と一支国」で，今回は，遺跡から多く出土する大陸関係遺物に注目し，副題として「大陸との交渉」とした。

「魏志倭人伝と一支国」シンポジウム（東京都）

司会は金関　恕・大阪府立弥生博物館長，他に佐原　真・国立歴史民俗博物館長，岡内三眞・早稲田大学教授，沈　奉謹・韓国東亜大学校教授，中山千夏・作家，田川　肇・壱岐原の辻遺跡調査事務所長，の６名がパネラーとして参加した。また，シンポジウムに先立ち，沈　奉謹氏による基調講演「韓国から見た壱岐・原の辻遺跡」が行われ，会場は満員の盛況であった。

③発掘調査事業

国庫補助事業による範囲確認調査と溜池建設工事に伴う緊急調査に大別される。

範囲確認調査は丘陵部について1,600㎡実施し，溜池造成工事については芦辺町内の現水田部について3,000㎡を実施した。

この内，特に溜池工事区域からは，我が国最古で初例の床大引材が出土し，最新の建築技術の発見で大きな注目をあびている。

三　県内の研究活動について

・長崎県考古学会

長崎県考古学会は年２回開催されている。春の総会は例年長崎市で開催されているが，平成９年度は長崎大学医学部を会場として６月14（土）と15日（日）の２日間開かれた。14日は古門雅高氏（県文化課）による「頭ケ島白浜遺跡」，川道　寛氏（県文化課）による「宇久松原遺跡」，宮下雅史氏（長崎市文化財課）による「瀬古窯」，寺田朋緒氏（長崎市出島復元整備室）による「出島」の遺跡発表があり，特別講演として麻生　優氏（千葉大学名誉教授）による「土器の起源と社会の変化」が

行われた。15日は中野雄二氏（波佐見町教育委員会）による「波佐見の窯」，加藤有重氏（平戸市教育委員会）による「平戸中野窯」の発表の後，加藤・中野・宮下・村川逸朗氏（県文化課）をパネラーとし，下川達彌氏（県立美術博物館）を司会とする「近世長崎県地方の窯業」のシンポジウムが行われた。本県においてはここ10年の間に古窯の調査と近世遺跡の調査が多くなってきており，出土する陶磁器の産地等様々な問題についての議論の場が提供されたことになる。

秋は福江市に舞台を移し，12月６日（土）・７日（日）の２日間五島列島の諸問題をメインテーマとする大会となった。遺跡の発表は川道　寛氏（県文化課）による「岐宿町茶園遺跡の成果から見た細石器」，正林　護氏（長崎県考古学会長）による「有川町頭ケ島遺跡出土の赤色顔料塗彩土器について」，福田一志氏（県文化課）による「福江市大浜遺跡の発掘調査について」，松崎義治氏（福江市教育委員会）による「福江市橘遺跡・溶岩台地上における遺跡の立地」等の発表後，記念講演として藤田明良氏（大阪大学非常勤講師）による「文献から見た古代・中世の五島列島」が行われた。

翌７日には，研究発表として，大石一久氏（県立大村高等学校）による「石造物から見た中世五島列島の様相」，村川逸朗氏（県文化課）による「地理及び歴史的環境から見た石田城と発掘調査について」が発表された。引き続き古門雅高氏（県文化課）を司会とするパネルディスカッション「交流史の中に見る五島列島文化の歴史的位置づけ」が各発表者をパネラーとして行われた。かつては五島列島においては北部に位置する宇久・小値賀島を除くと須恵器発見の報告も無く，古墳時代以降の様相については殆ど不明のままであった。しかし，福江市在住の地元研究者の表採資料に墨書銘のある須恵器が含まれており，当該期の様相が究明されることが期待されていた。その後，その事実は発掘調査で裏づけられることとなり，空白であった五島列島（特に福江島）の古代が改めてクローズアップされるようになった。その意味でもこの研究大会はまことに時宜をえたタイムリーな企画であったといえる。

（県文化課　高野晋司）

四　調査の動向

【旧石器時代】

県内における，旧石器を主体とする調査は，下大久保遺跡（平戸市）において旧石器時代に属する石器片が比較的多量に検出され，遺物包含層も確認されており，小規模ながら良好な状況で遺存しているものとみられている。平成12年度に本調査を予定している。

【縄文時代】

磨屋町遺跡（長崎市）は，市街地を流れる中島川の東側に位置し，諏訪町の磨屋小学校跡にある。江戸時代の土層の下に無遺物層を挟んで縄文時代晩期の包含層が捉えられた。遺構としてはドングリ貯蔵穴が１基検出されている。出土遺物は，組織文土器や条痕文土器とともに石鏃・石匙・削器・磨製石斧・打製石斧等の石器がある。

今福遺跡（松浦市）は，市東部，佐賀県伊万里市との境に近い伊万里湾に面した沖積地に立地している。Ⅶ層緑褐色粘砂層からⅨ層青灰色粘質土層にかけて，縄文晩期から弥生時代にかけての土器・

石器が出土している。これらは混在しており，層位としては捉えられていない。晩期土器は，中葉の宮の本式から終末の夜臼式で，石鏃・スクレーパ・サイドブレード・磨製石斧・石核・剥片等の石器がある。

黒丸遺跡（大村市）は，大村扇状地を流れる郡川の下流域から河口にかけての南岸に位置する。今年度は基礎資料収集の目的のため調査が行われ，縄文晩期黒川式期から弥生前期後半に属する遺物がまとまって出土している。

風観岳支石墓群（諫早市）での調査では，従来の知見に加え，新たに造営時の姿がそのまま残った支石墓が１基確認された。構造としては下部構造の箱式石棺の上に蓋石があり，その上に支石に支えられた1.4ｔの上石が乗っている。副葬品は確認されず，時期の特定には至っていない。

【弥生時代】

主な調査として，壱岐郡芦辺町と石田町にまたがる原の辻遺跡の調査例がある。原の辻遺跡は，平成５年度以降の県営幡鉾川流域総合整備計画に伴い実施した緊急発掘調査・範囲確認調査により三重の環濠に守られた100ｈａにおよぶ拠点集落であることが判明し，壱岐島内に他にこれほどの大きさの遺跡が存在しないことから『魏志倭人伝』に記載される「一支国」の王都であることが特定され平成９年９月丘陵部の一次答申分が国指定史跡として官報告示をうけた。

今年度は環濠の外側の丘陵部西の不條地区で，溜池工事に伴い3,000㎡が県教委・芦辺町教委により調査された。その結果，弥生中期の旧河道・濠・土壙・溝等の遺構が検出された。土器は須玖Ⅰ・Ⅱ式が中心で，対外交渉を示す遺物としては朝鮮半島系の土器が60点余り出土している。石器では，石鎌・石庖丁等の農具，扁平片刃石斧等の工具・石剣・石戈・磨製石鏃等の武器，磨石・凹石等の調理具の他，漁撈具として石錘が出土している。木製品は，杓子・椀形容器・案・船形容器・砧等のほかに，礎石とセットをなすとみられる高床式建物の床材である床大引材（ほぞ穴を入れた建築部材）等が出土している。これらのほかには，旧河道からは食料残滓として獣骨・魚骨・貝殻が若干出土し土製品として投弾・紡錘車も出土している。この不條地区の調査により，低地部での居住域が確認され，三重の環濠の外側にも河道を利用した濠が掘られていることがわかった。武器の出土とあわせ，西側への防禦意識の高さもうかがわれる。また，床大引材の出土は大陸から伝えられた当時の最先端技術による大型建造物が原の辻遺跡に存在したことを明らかにしたと考えられている。

原の辻遺跡（原地区・高元地区）は，三重の環濠に囲まれた遺跡の中心と考えられる丘陵台地部の調査区である。原地区は，台地中央部の最高所にあり今までに高床建物群が確認されるなどの成果がみられ火を使った跡なども確認されていることから，宮本長二郎氏により祭殿跡とみられており遺跡の中心施設とみられている。他にはこれまでの調査で竪穴住居跡や濠２条が発見されている。

今年度の原地区の調査は，祭殿跡や濠２条が確認された最高所の東側斜面にあたる。調査の結果，Ⅰ・Ⅱ区合わせて弥生中期～古墳前期の竪穴住居跡16軒・濠１条・幅約２ｍの溝５条・柱穴・ピット・小児甕棺墓５基が検出されている。遺物は該期の土器・磨石・砥石等の石器がある。今回検出された濠は，台地最高所の濠２条の延伸部分と考えられており，中枢部を区画する可能性が調査者の宮

崎貴夫により指摘されている。

高元地区の調査区は，丘陵部の北端から北東端にあり甕棺墓等が検出されている。池田大原地区は三重の環濠の外側で，遺跡の中心をなす丘陵部に連なる南西の丘陵部であるが，Ⅰ区から南北にのびる幅１m50cm，深さ約70cmの断面Ｖ字形の濠１条とピット群が検出された。今回の断面Ｖ字形の濠の確認で三重の環濠の外にも防禦線があったことが南西部でも確認されている。

車出遺跡（郷ノ浦町）では幡鉾川流域総合整備計画の県営圃場整備事業に伴い緊急調査が行われた。遺跡は壱岐島の南部を東西に貫流する幡鉾川の源流付近に位置している。同河川は高低差があまりない緩やかな流れであるが，東部の下流域に原の辻遺跡があり今後これらの二遺跡の関係がどうなっていくのか興味深い。調査の結果，検出された遺構は土器溜りと思われる落ち込み遺構があり，この遺構は祭祀的な性格も考えられている。他には幅１mのＵ字形の溝状遺構があり，前出した土器溜りの下からは弥生中期の貯蔵穴が１基検出されている。出土遺物は，弥生中期から後期の丹塗土器のほか青銅製の方格規矩鏡や完形の小形仿製鏡，貨泉１枚と銅鏃３本が良好な保存状態で出土している。丹塗土器についても，壺が大半をしめるが10個程の完形品がある。また，小形仿製鏡の周囲からはガラス製管玉や小玉，メノウ製小玉等も出土していて調査者の安楽勉により墓地の可能性があることが示唆されている。石器は石剣片・石斧・凹石・くど石・砥石・石錘等が出土している。

【古墳時代】

佃遺跡（国見町）は平成７年度より県営圃場整備事業に伴い調査が行われている。遺跡は雲仙山麓より続く丘陵先端およびその北側に広がる平野に立地している。前には有明海がひらけ対岸の高来町・小長井町等を望むことができる。この平野には条里遺構も残存していて島原半島では最大規模の広さをもっている。標高は15～25m，遺跡面積は165,000㎡に及ぶ弥生中期～中世にかけての複合遺跡である。今年度の調査では遺跡の北端部から古墳時代前半期の１間×２間の掘立柱建物跡が検出された。桁行き方向はＮ20°Ｅにとり，桁行間9.00m・梁間4.72mである。柱穴の堀り方はほぼ円形で素堀りで一部は二段堀りである。柱穴の直径は約40㎡，全ての柱穴より古墳前半期と考えられる土師器片が出土している。掘立柱建物跡南側約10m付近では大型の円形竪穴住居が３棟（最大のものは直径約10m）検出されている。遺物をみるかぎりではほぼ同時期のものと推測されている。調査者である辻田直人は今後の調査で掘立柱建物と大型竪穴住居との関連が明らかになれば，この時期の集落形態を知る上で貴重な資料となるだろうとの考えをもっている。現在，遺跡保存は困難な状況のようである。

【古代】

古代から中世にかけての遺跡が二例ほど調査されている。興触遺跡（芦辺町）では律令時代（８世紀頃）の遺物がⅢ区からまとまって出土している。出土した遺物としては緑釉陶器や越州窯系青磁等である。遺跡名の興触の興（こう）からして国府との関連を指摘するむきもあるが，直接官衙との結びつきを示すような遺物は出土していない。対馬南端にある豆酘の馬乗石遺跡（厳原町）では５世紀から古代・中世の遺物が祭祀遺構ではないかとみられる集石盛土遺構から出土している。古代のもの

としては緑釉陶器・越州窯系陶器等がある。対馬南端に位置するところから大陸との交渉の中継地としての意味を示唆するものかもしれない。

【中世】

城跡からみていくと国史跡原城跡（南有馬町）では町教委により整備に伴う調査が行われている。1637（寛永14）年の島原・天草の乱で一揆軍が籠城した有馬氏の支城で発掘調査は1992（平成４）年から10年計画で実施されていて，本丸跡の調査が継続しておこなわれている。調査成果としては今年度は本丸入口を構成する石垣に沿って，大量の瓦が出土した。これまで乱の際の原城は，石垣が森岳城（もりたけじょう・島原城のこと）の築城のために使用され，廃城であったというのが定説であった。しかし，これまでの調査においても石垣はほとんどが残っていることが確認されている。そして今回の大量の瓦の出土により，一揆軍が籠城した際，原城には石垣とともに建物も残っていた可能性がでてきた。

日野江城跡（北有馬町）は町教委により整備に伴う調査が行われている。日野江城は建保年間（1213～1219年）に有馬氏の初代有馬経澄が築いたとされる山城で，以後15代有馬直純までの400年間有馬氏の居城であった。調査成果としては総延長50mに及ぶとみられる階段遺構が発掘された。階段遺構は日野江城跡東側（二の丸）から西側（本丸）へ直線的に延びる。現在確認されている階段の規模は幅約４m～７mで，全長は50m以上に及ぶとみられる。階段の時期は16世紀末前後と考えられている。

金石城跡（厳原町）は町教委により整備に伴う調査が行われた。金石城は対馬の宗家14代宗将盛が1528（享禄元）年に金石屋形を造り，1679（延宝６）年までの約150年間，国守の館として存続した。今回は文化年間の金石城絵図に記された「泉水池」の復元整備を目的とする。調査成果としては遺構として，石組みの溝２本（暗渠か？）が検出され，池の具体的な構造が明らかとなった。しかし池の形状や築造年代については今後の課題として残った。

玖島城跡（大村市）は県教委によって道路拡幅にともなう範囲確認調査が行われた。玖島城は1599（慶長４）年大村家（のちの近世大村藩）の第19代喜前の時に築城された平山城である。今回は1702（元禄15）年に大村家23代純尹によって築かれた「花林軒」と称する庭園跡の調査が行われた。調査成果としては遺構として近世の礎石建物跡３軒，庭園池の淵部分，庭石などが発掘された。

城岳城跡（奈留町）は町教委によって移動通信用鉄塔施設整備事業に伴う調査が行われた。城岳城跡は五島・奈留島の中央部標高189mにあり，中世の土豪奈留氏の居城といわれている。調査成果としては出土遺物としては白磁皿，染付皿など15～16世紀の貿易陶磁を中心として出土した。しかし，現在この地は公園化され，多くの施設が建てられ遺構は既に削平されたものと判断された。

沖城跡（諫早市）は，市教委によって道路拡幅に伴い調査された。龍造寺家晴が隠居後住まいとした陣屋跡で，調査成果としては六角形の柱跡や多数の木製品が出土している。

坂口館跡（大村市）は，市教委によって市の歴史公園整備事業に伴い調査された。坂口館は大村家（のちの近世大村藩）18代キリシタン大名大村純忠（1533～1587）が領主を退き，没するまでの２年

間の居住地跡である。調査成果としては遺構として３棟の掘立柱建物跡を検出した。

その他の中世遺跡調査としては佃遺跡（国見町）が町教委によって圃場整備にともない本調査が行われた。圃場整備予定地内に縄文時代のドングリ貯蔵穴，弥生中期の甕棺墓・石棺墓群，中世の掘立柱建物跡，溝状遺構などが検出されている。調査成果としては，丘陵の縁辺に沿って，長さ100m，幅１m，深さ１mの溝が検出されているが，その溝底より龍泉窯系青磁の鎬蓮弁文椀が１点，完形で出土している。出土状況から溝を廃棄する際の地鎮に用いられたのではないかと推定される。

水崎遺跡（美津島町）は，町教委による道路拡幅工事に伴う緊急調査である。調査面積は30㎡とわずかだが，柱穴や焼土などが検出された。調査成果としては，調査区からは多くの高麗青磁・李朝陶磁器が出土している。大半は14～15世紀の粉青沙器である。

興触遺跡（芦辺町）は，県教委によって圃場整備に伴い調査された。遺構としては溝・土坑・柱穴，遺物としては貿易陶磁・国産土器が出土している。時期は10～16世紀で，中心は12世紀頃とみられる。調査成果としては，溝底より白磁Ⅳ類と土師器皿を組合わせた埋納遺構が発見された。

調査および移設保存例としては下茅場遺跡（西彼町）がある。これは，農道新設に伴う石鍋製作跡の調査で，町教委により遺構の一部が重機で切り取られ町内に移設・保存された。町総合体育館に展示された遺構は重さ39トンに及ぶ。

【近世】

長崎市の桜町遺跡（藤田氏宅）は試掘調査により遺跡が良好な状態で包蔵されていることが確認された。18世紀前半の古地図によりその時期に調査地点が２軒の屋敷に分かれることが判っていた。調査の結果，江戸時代の生活面を２期確認しそれに伴う遺構が多く検出されている。遺構としては，土壙72基・井戸３基・溝状石列・ピット群及び石敷等を検出している。また，埋甕・胞衣壺等もある。遺構は，その配置から井戸と埋甕・溝状石列に相関関係が認められている。また，敷地に対して土壙の検出数が多く，建物の基礎にあたる石組や礎石等は検出されていない。基本層序は，中央部のメインベルトより西側と東側で違いがみられ，このライン上に屋敷境が想定される。最下層から桜町建設当時にあたる17世紀後半の遺物を主体とする土壙・石敷を検出したが，面的には一部の広がりしか認められていない。遺物の出土点数は約40,000点で17世紀後半から19世紀に至る資料が出土している。特に18世紀代の遺物が主体となる。その内容としては，国産陶磁器を中心に輸入陶磁器・土製品・瓦・金属製品・ガラス製品・動物の骨や貝殻等の食物残滓と多岐にわたっている。

三股青磁窯跡（波佐見町）は青磁の優品を多く生産した窯跡で町内の古窯跡でも愛好家には有名な窯跡である。平成２年度より国庫・県費の補助を受けて古窯跡の発掘調査を行い，波佐見窯業史の実態解明と保存整備に向けての基礎資料作成のため調査を行い，本年度は８年目にあたり本窯跡の調査が行われた。町内には他に陶器から磁器生産に移行する段階の畑ノ原窯跡，世界最大級の規模を有し日用食器を大量生産していた中尾上登窯跡等の近世以降の国内窯業史に重要な意味をもつ古窯跡が30基ほど残存している。

調査の結果，Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ区から９室分の窯室が検出された。物原は後世の整地によって操業当

時の堆積層は掴めていないが，整地層中から青磁を主体とする大量の磁器片及び窯道具が検出されている。窯体はⅠ・Ⅱ区からは５室分の窯室が検出されている。上位から第１～５室とする。第１室はほぼ削平を受けていた。しかし，第２～５室は，遺存状態が良く奥壁・側壁が検出されている。第４室は奥行３ｍ・幅4.5mの窯室規模であることが判明した。

また，奥壁高は50㎝程であり，基礎にトンバイの使用が見られた。Ⅳ区からは第６・７室，Ⅴ区からは第８・９室が確認され，窯体全長は45m以上に及ぶ巨大なものであることが判明した。物原は後世の整地によって操業当時の堆積層は削平を受けていたため層位的な製品様相の変遷は掴めていない。しかし，とくにⅢ区３層中から大量の青磁・窯道具が検出されている。これらの遺物は本窯跡のものであるとみられており，大まかであるが本窯における製品構成等が明らかになっている。操業年代はその製品様相から，17世紀前半代（1630～50年代）を中心に操業していたことが推定されている。当該の時期における，いわゆる「三股青磁」として名高い青磁の優品の実態解明の端緒が掴めたことが成果であろう。

［ 文 献 一 覧 ］

【各時代にわたるもの】

1．『原始・古代の長崎県』－通史編－　長崎県教育委員会

2．下川達彌「キリシタンの考古学」『季刊考古学59』雄山閣

3．古門雅高・東貴之・村川逸朗編『県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ』長崎県文化財調査報告書第147集　長崎県教育委員会

4．小松旭編『長崎県埋蔵文化財調査年報５』長崎県文化財調査報告書第148集　長崎県教育委員会

5．加藤有重・塩塚浩一編『西中山遺跡・草積遺跡・下大久保遺跡・下中野第１遺跡』平戸市の文化財第42集　平戸市教育委員会

6．中田敦之・高原愛編『松浦市内遺跡確認調査（２）』松浦市文化財調査報告書第13集　松浦市教育委員会

7．中田敦之編『松浦・今福遺跡』松浦市文化財調査報告書第14集　松浦市教育委員会

8．大野安生・安部憲毅『富の原遺跡・大村館墓地・下荒瀬山下墓地』大村市文化財調査報告書第21集　大村市教育委員会

9．安部憲毅編『帯取遺跡』大村市文化財保護協会

10．川口洋平編『覩城跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第３集　長崎県教育委員会

11．宮崎貴夫編『百合畑古墳群・山ノ神古墳・壱岐氏居館跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第２集　長崎県教育委員会

12．村川逸朗編『馬乗石遺跡』長崎県文化財調査報告書第149集　長崎県教育委員会

13．川口洋平編『興触遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第７集　長崎県教育委員会

14．正林護・福田一志・永嶋豊編『陣の内遺跡』瑞穂町文化財調査報告書第２集　瑞穂町教育委員会

【旧石器時代】
15. 川道寛編『茶園遺跡』岐宿町文化財調査報告書第３集　岐宿町教育委員会
【縄文時代】
16. 古門雅高編『広久保遺跡』江迎町文化財調査報告書第１集　江迎町教育委員会
17. 川道寛編『宮下貝塚』富江町文化財調査報告書第１集　富江町教育委員会
18. 甲斐田彰編『蒲河遺跡』長崎県文化財調査報告書第142集　長崎県教育委員会
19. 村川逸朗編『稗田原遺跡Ⅱ』長崎県文化財調査報告書第145集　長崎県教育委員会
【弥生時代】
20. 西信男編『原の辻遺跡・鶴田遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第４集　長崎県教育委員会
21. 杉原敦史編『原の辻遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第５集　長崎県教育委員会
22. 安楽勉編『車出遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第８集　長崎県教育委員会
23. 宮崎貴夫編『原の辻遺跡　上下巻』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第10集　長崎県教育委員会
24. 安楽勉編　『鶴田遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第10集　長崎県教育委員会
25. 川口洋平編『鶴田遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第６集　長崎県教育委員会
26. 山下英明・川口洋平編『原の辻遺跡・安国寺前Ａ遺跡・安国寺前Ｂ遺跡』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第１集　長崎県教育委員会
27. 藤田和裕編『辻貝塚』加津佐町文化財調査報告書第２集　加津佐町教育委員会
【古墳時代】
28. 川道寛編『長戸鬼塚古墳』小長井町文化財調査報告書第１集　小長井町教育委員会
【古代】
29. 福田一志編『大浜遺跡』長崎県文化財調査報告書第141集　長崎県教育委員会
【中世】
30. 久村貞男編 1997『武辺城跡発掘調査報告書（第２次）』平成８年度佐世保市埋蔵文化財発掘調査報告書　佐世保市教育委員会
31. 大野安生・安部憲毅『坂口館跡』大村市文化財調査報告書第22集　大村市教育委員会
32. 高野晋司編『沖城跡』　長崎県文化財調査報告書第143集　長崎県教育委員会
33. 木村岳士編『日野江城跡』北有馬町文化財調査報告書第２集　北有馬町教育委員会
34. 荒木伸也編『下茅場遺跡』西彼町文化財調査報告書第１集　西彼町教育委員会
35. 甲斐田彰編『宇久山本遺跡』宇久町文化財調査報告書第３集　宇久町教育委員会
【近世】
36. 町田利幸編『桜町遺跡』長崎県文化財調査報告書第144集　長崎県教育委員会
37. 小松旭編『長崎奉行所（立山役所）跡』長崎県文化財調査報告書第146集　長崎県教育委員会
38. 高田美由紀編『桜町遺跡』長崎市教育委員会
39. 宮下雅史編『深堀経塚』長崎市教育委員会
40. 高田美由紀編『亀山焼窯跡』長崎市教育委員会
41. 中野雄二編『三股青磁窯跡』波佐見町文化財調査報告書第１集　波佐見町教育委員会

（原の辻遺跡調査事務所　村川逸朗）

五．長崎県教育委員会発行調査報告書一覧①

No.	報　告　書　名	発行年月
第1集	長崎県遺跡地名表　埋蔵文化財包蔵地一覧	1962,
第2集	五島遺跡調査報告	1964,
第3集	民俗資料調査報告書	
第4集	福井洞穴調査報告（図録編）	1966,
第5集	深堀遺跡	
第6集	男女群島特別調査報告	1968, 3
第7集	宮下遺跡調査報告（図録編）	1968, 3
第8集	対馬－豊玉村佐世保シゲノダン・唐崎の青銅器を出土した遺跡の調査報告－	1969,
第9集	宮下遺跡調査報告（解説編）	
第10集	堂崎遺跡調査報告書（長崎県長与町所在）	1970, 9
第11集	有明海沿岸地区の民俗	1972, 3
第12集	長崎県の民家（前編・後編）	1972, 3
第13集	対馬西岸阿連・志多留の民俗	
第14集	里田原遺跡（図録）	1972,
第15集	下五島貝津・大串の民俗（本文編・図録編）	1974, 3
第16集	対馬の文化財	
第17集	対馬－浅茅湾とその周辺の考古学調査－	1974, 3
第18集	里田原遺跡（略報Ⅱ）	1974,
第19集	壱岐の文化財	
第20集	対馬の遺跡	1975,
第21集	里田原遺跡	1975, 3
第22集	下五島の文化財	
第23集	長崎県民俗地図	1976, 3
第24集	諫早北バイパス関係埋蔵文化財調査報告　第１集（図録編）	1975,
第25集	里田原遺跡	1976, 3
第26集	原の辻遺跡	1976,
第27集	西彼杵半島猪垣分布調査概観	1977, 1
第28集	平戸市野子地域の民俗・福島町土谷の民俗（上・下）	1977, 3
第29集	長崎県のカトリック教会	1977, 3
第30集	旧島原藩薬園跡環境整備報告	1977,
第31集	原の辻遺跡（Ⅱ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1977, 3
第32集	里田原遺跡	1977,
第33集	金石城跡緊急発掘調査報告書	1977, 3
第34集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅰ）採譜篇・別冊	
第35集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅰ	1978,
第36集	世知原町開作免の民俗	1978, 3
第37集	原の辻遺跡（Ⅲ）－長崎県壱岐郡所在の弥生遺跡－	1978,
第38集	里田原遺跡	1978,
第39集	日蘭関係資料	1979, 3
第40集	平戸・上五島地区の文化財	1979, 3
第40集の2	平戸・上五島地区の文化財（美術工芸品の部）	1979, 3
第41集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅱ）採譜篇	1979, 3
第42集	長崎県の海女（海士）	1979, 3
第43集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅲ）	1979, 3
第44集	松浦市とその周辺地区の文化財	1979, 3
第45集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅱ	1979,
第46集	大村湾の漁労習俗	1980, 3
第47集	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅳ）	1980, 3
第48集	キリシタン関係資料	1980, 3
第49集	佐世保市とその周辺地区の文化財	1979,
第50集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅲ	1980,
第51集	串島遺跡	1980, 3
第52集ａ	ケイマンゴー遺跡	1980, 9
第52集ｂ	長崎県の民俗芸能・民謡（Ⅴ）	1981, 3
第53集	諫早・大村・北高来郡の文化財	1981, 3
第54集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1981,
第55集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅳ	1981, 3
第56集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1982,
第57集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅴ	1982,
第58集	堂崎遺跡－長崎県有家町所在の海中干潟遺跡－	1982, 3
第59集	島原・南高の文化財	1982, 3
第60集	針尾人崎遺跡－佐世保市針尾中町所在－	1982, 3
第61集	長崎唐寺関係所蔵品目録	1982, 3
第62集	長崎・西彼の文化財	1983, 3
第63集	橘湾の漁労習俗	1983, 3
第64集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1983,
第65集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅰ	1983, 3
第66集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅵ	1983, 3
第67集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅶ	1984, 3
第68集	今福遺跡Ⅰ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第一冊	1984, 3
第69集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅳ	1984,
第70集	長崎県の農具調査（前編）	1985, 3
第71集	名切遺跡	1985, 3
第72集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅴ	1985,
第73集	西ノ角遺跡	1985,
第74集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅱ	1985,
第75集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅷ	1985,
第76集	楼楷田遺跡　松浦火力発電所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書	1985,

長崎県教育委員会発行調査報告書一覧②

No.	報　告　書　名	発行年月
第77集	今福遺跡Ⅱ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第二冊	1985,
第78集	百花台遺跡	1985, 3
第79集	長崎県の近世寺社建築　　近世寺社建築緊急調査報告書	1986, 3
第80集	長崎県の農具調査（後編）	1986, 3
第81集	上原遺跡	1986,
第82集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅸ	1986, 3
第83集	殿崎遺跡	1986,
第84集	今福遺跡Ⅲ　県道矢次・南有馬線改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書　第三冊	1986, 3
第85集	諫早中核工業団地造成に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅲ	1986, 3
第86集	長崎県埋蔵文化財調査集報Ⅹ	1987, 3
第87集	長崎県遺跡地図	1987, 3
第88集	長崎県の民謡	1987, 3
第89集	温泉岳　保存管理計画策定書	1988, 3
第90集	中道壇遺跡	1988, 3
第91集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅠ	1988, 3
第92集	百花台広域公園建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1988, 3
第93集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅵ	1989,
第94集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅡ	1989, 3
第95集	魚洗川Ｂ遺跡－全国植樹祭会場造成工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1990, 3
第96集	長崎県の諸職調査	1990, 3
第97集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅢ	1990, 3
第98集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅶ	1990,
第99集	九州横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書Ⅷ	1991,
第100集	礫石原遺跡－県道愛野～島原線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－	1991, 3
第101集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅣ	1991, 3
第102集	対馬天然記念物緊急調査報告書	1991, 3
第103集	長崎県天然記念物実態調査報告書－対馬を除く－	1991, 3
第104集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅤ	1992, 3
第105集	上大垣遺跡	1992, 3
第106集	県内古墳詳細分布調査報告書	1992, 3
第107集	大陸渡来文物緊急調査報告	1992, 3
第108集	長崎県埋蔵文化財調査集報ⅩⅥ	1993, 3
第109集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書	1993, 3
第110集	長崎県遺跡地図－長崎市・諫早市・大村市・西彼杵郡・北高来郡地区－	1994, 3
第111集	長崎県遺跡地図－島原市・南高来郡地区－	1994, 3
第112集	長崎県遺跡地図－壱岐地区－	1994, 3
第113集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅰ	1994, 3
第114集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅱ	1994, 3
第115集	中木場遺跡－水無川第３遊砂地造成工事に伴う発掘調査報告書－	1994, 3
第116集	県道国見雲仙線改良工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書	1994, 3
第117集	長崎県遺跡地図－福江市・南松浦郡地区－	1995, 3
第118集	長崎県遺跡地図－対馬地区－	1995, 3
第119集	長崎県遺跡地図－佐世保市・平戸市・松浦市・北松浦郡・東彼杵郡地区－	1995, 3
第120集	長崎県の民俗芸能－長崎県民俗芸能緊急調査報告書－	1995, 3
第121集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅲ	1995, 3
第122集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅱ	1995, 3
第123集	万才町遺跡　長崎県庁新別館建替えに伴う発掘調査報告書	1995, 3
第124集	原の辻遺跡	1995, 3
第125集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅲ	1996, 3
第126集	伊木力遺跡Ⅰ	1996, 3
第127集	黒丸遺跡Ⅰ－都市計画道路杭出津・松原線改良工事に伴う発掘調査報告書－	1996, 3
第128集	中木場遺跡Ⅱ－水無川４号遊砂地造成工事に伴う工事立会調査－	1996, 3
第129集	中木場遺跡Ⅲ－水無川１号ダム建設工事に伴う緊急発掘調査－	1996, 3
第130集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅳ	1996, 3
第131集	長崎奉行所関係文書調査報告書	1997, 3
第132集	黒丸遺跡Ⅱ	1997, 3
第133集	県内重要遺跡範囲確認調査報告書Ⅴ	1997, 3
第134集	伊木力遺跡Ⅱ	1997, 3
第135集	長崎県埋蔵文化財調査年報Ⅳ	1997, 3
第136集	稗田原遺跡Ⅰ	1997, 3
第137集	広平遺跡	1997, 3
第138集	桟原城跡	1997, 3
第139集	石田城跡	1997, 3
第140集	長崎県の近代化遺産－長崎県近代化遺産総合調査報告書－	1998, 3
第141集	大浜遺跡	1998, 3
第142集	蒲河遺跡	1998, 3
第143集	沖城跡	1998, 3
第144集	桜町遺跡	1998, 3
第145集	稗田原遺跡Ⅱ	1998, 3
第146集	長崎奉行所（立山役所）跡	1998, 3
第147集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅰ	1998, 3
第148集	長崎県埋蔵文化財調査年報５	1998, 3
第149集	馬乗石遺跡	1998, 3
第150集	長崎県埋蔵文化財調査年報６	1999, 3
第151集	県内主要遺跡内容確認調査報告書Ⅱ	1999, 3
第152集	稗田原遺跡Ⅲ	1999, 3
第153集	長崎県の隠れキリシタン調査報告書	1999, 3

六　平成４年度から平成９年度の開発事業別発掘等件数

		平成４年	平成５年	平成６年	平成７年	平成８年	平成９年
緊急調査	道路	２４	２０	３２	２０	１４	１２
	鉄道	0	0	0	0	0	0
	空港	0	0	0	0	0	0
	河川改修	9	3	4	4	1	1
	ダム建設	0	0	0	0	0	1
	学校	2	2	2	2	2	3
	住宅・宅地	１３	１３	２９	３５	３１	１６
	区画整理	2	8	5	2	3	2
	その他建物	１４	１２	１７	１１	9	１１
	ガス・電気・水道	6	１０	8	0	1	5
	工場	3	2	0	0	2	4
	農業関連	３１	１６	２８	２２	２９	３３
	ゴルフ場	0	3	0	0	0	0
	土砂採取	3	1	0	1	0	0
	その他開発	１９	9	１２	２３	0	7
	観光開発	2	0	1	1	0	0
	自然消滅	2	2	0	0	0	1
	整備	2	9	4	１２	2	2
	確認試掘	3	6	１１	0	4	2
	公園	１４	7	5	0	3	2
学術調査		9	１１	１０	0	0	0
合計		１６１	１３４	１６８	１３３	１０８	１０２

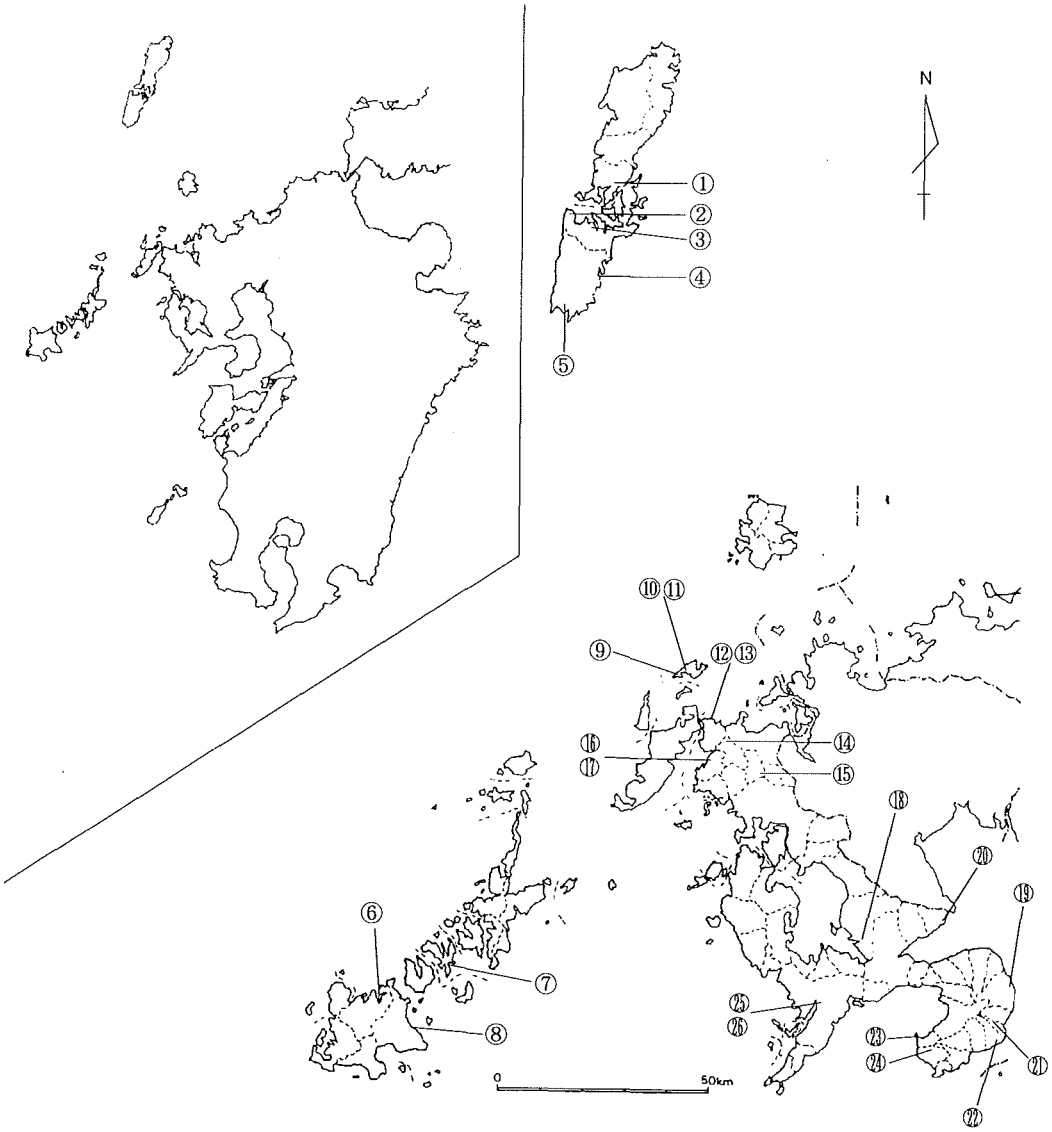
平成４年度から平成９年度の県市町村別職員数

	平成４年度		平成５年度		平成６年度		平成７年度		平成８年度	
区分	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村	県	市町村
職員数	12(2)	15(2)	15(2)	16(2)	18(2)	24(2)	16(3)	32(2)	17(3)	34(8)

	平成９年度	
区分	県	市町村
職員数	17(3)	32(9)

（　）は嘱託等を示す外数である

Ⅱ　各遺跡の調査概要



平成９年度長崎県内発掘調査箇所

①クワバル古墳	（豊玉町）	⑩水ノ元遺跡	（大島村）	⑲稗田原遺跡	（島原市）
②水崎遺跡	（美津島町）	⑪菰蓋池遺跡	（大島村）	⑳長戸鬼塚古墳	（小長井町）
③金田城跡	（美津島町）	⑫岳崎古墳	（田平町）	㉑山の寺梶木遺跡	（深江町）
④金石城跡	（厳原町）	⑬岳崎遺跡	（田平町）	㉒蒲河遺跡	（有家町）
⑤馬乗石遺跡	（厳原町）	⑭広久保遺跡	（江迎町）	㉓国崎遺跡	（南串山町）
⑥茶園遺跡	（岐宿町）	⑮串田池遺跡	（吉井町）	㉔辻貝塚	（加津佐町）
⑦城岳城跡	（奈留町）	⑯浮脇遺跡	（鹿町町）	㉕長崎奉行所（立山役所）跡	（長崎市）
⑧石田城跡	（福江市）	⑰関里遺跡	（鹿町町）		
⑨長畑馬場遺跡	（大島村）	⑱玖島城跡	（大村市）	㉖城山城跡	（長崎市）

① クワバル古墳

所在地	下県郡豊玉町大字曽字桑原245番地他	調査主体	豊玉町教育委員会
調査原因	町道改良工事	調査面積	80㎡
調査期間	平成９年12月１日～12月５日	処置	本調査
報告書	平成10年度刊行予定	遺跡番号	76-049

立地

対馬島の東海岸，曽浜より仁位方面へ1.5kmほど進むと，曽川中流の左岸に川と直交するように突き出た丘陵がある。その丘陵の頂上，標高30m付近に１基の箱式石棺がある。

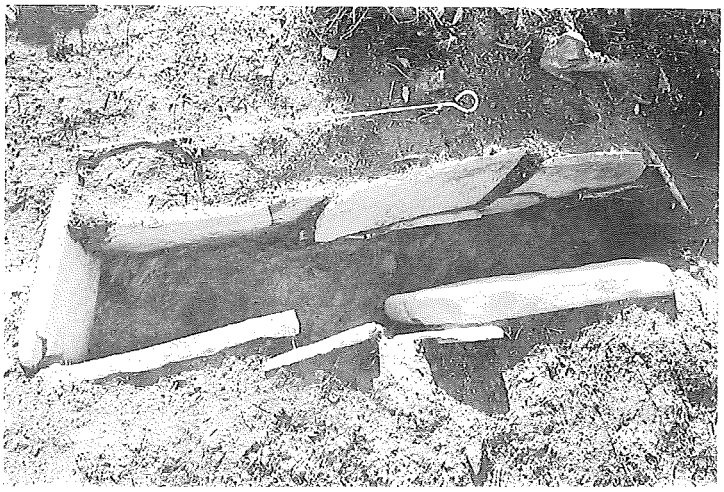
調査

工事により丘陵の先端部が削られることになるため，範囲確認調査がおこなわれた。削られる部分に２×５mの試掘坑を４か所設定し調査を進めた。また箱式石棺の実測をおこなうために，石棺周辺の腐植土などを取り除く作業も実施した。

頂上に近い試掘坑から１基の箱式石棺が検出されたほかは，遺構・遺物ともに確認されなかった。新規発見の箱式石棺は，周知の箱式石棺の北約11m，標高約28.5mの緩やかな斜面で検出された。蓋石と西側の小口石はない。主軸はおおよそ北西－南東にとる。内法は長さ約160cm，幅約30cm，深さ約30cmである。副葬品はなく，また周囲からも遺物は出土しなかった。

遺物は陶質土器を主体とし，周知の箱式石棺周辺の腐植土から出土したものがほとんどである。その他に土師器の高坏脚部片が数点，また石棺の東側斜面にみられる廃棄されたような礫群の中から鉄剣片が２点出土した。

まとめ



新規発見の箱式石棺

クワバル古墳は1948（昭和23）年に，東亜考古學会により調査がおこなわれており，その調査報告書『對馬』の中で「積石圓墳：曾桑原蒙古塚」として掲載されている。「径30cmほどの礫を積んだ積石塚」とあるが，現状では積まれた礫を確認できない。丘陵の頂上部に集石かと思われる礫群と，東側斜面に廃棄されたような礫群を確認することができるだけである。今回の調査で，箱式石棺が新たに発見されたことにより，来年度改めて本調査をおこなうこととし，また工事範囲内にある発見された箱式石棺の取扱いについても，協議をおこなうこととした。　［調査担当：甲斐田・荒木］（文責：荒木）

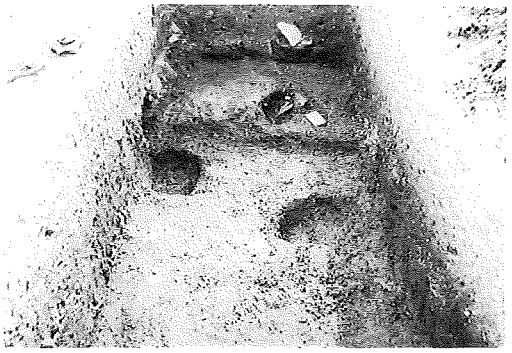
② 水崎（みずさき）遺跡

所在地	下県郡美津島町大字尾崎字水崎	調査主体	美津島町教育委員会
調査原因	道路建設	調査面積	30m²
調査期間	平成９年11月10日～14日	処置	調査後工事
報告書	平成11年３月刊行予定	遺跡番号	75-001

立地

遺跡は，対馬を大きく二分するように開口する浅茅湾の西側入り口部分に位置する。浅茅湾岸は周知のごとく，弥生から古墳時代にかけての遺跡が多く，朝鮮半島系の遺物が多量に出土することで知られる。

本遺跡も李朝陶磁器が多量に表採されることで知られ，狭小ではあるが平坦な土地を擁することから，中世の良好な包含層が期待されていた。特に浅茅湾の入り口に位置することから，朝鮮半島との航海上，重要な位置にあることが想定され中世の対馬を考える上でも重要な位置を占めるものと思われる。



遺構検出状況

調査

調査は，町道の拡幅に伴うもので，拡幅部分２ｍについて南北に調査壙を設定した。幅が狭く思うような調査ができなかったが，遺物・遺構等が出土し，良好な包含層を確認することができた。遺構は，柱穴が調査壙に沿うように出土し，すべての柱穴に敷石や，根固め石を据えるなど，中世の建築様式を考える上でも重要な遺構と思われる。ただ，調査区が狭いため全体の遺構の構成を捉えるまでには至らなかった。また，土層の分層が幾分困難なところがあり，柱穴の確認面が今回はっきりしなかった。遺物は李朝陶磁器を中心に多量に出土し，特にベトナム・タイの陶磁器が10数点出土したことは，この時期の海外交流史を考えるうえでも欠かすことのできない資料を提供した。今回の調査は，この地域に中世の集落が良好なかたちで存在することを確認することができ，対馬の中世集落を考える上で重要な遺跡であることを追認することができた。

まとめ

本遺跡を含む地域は尾崎といわれ，『海東諸国記』にも記載されている。今回出土した遺物から，遺跡を構成する時期はほぼ14～15世紀に押さえられるものと判断される。この時期，対馬ではこの地の土豪早田氏が勢力を伸張しており，その本拠地として大船越に居を構えていたことが知られる。尾崎地区には早田氏の「朝鮮国告身」が現在も伝世しており，浅茅湾一帯を勢力下におさえていた早田氏がこの地とも大きな関係があったことがわかる。早田氏は琉球と朝鮮半島との間で三角貿易を行っており，これに伴いベトナム陶磁器も舶載されたものであろう。［調査担当：福田］（文責：福田）

③ 金田城跡（かねだ）

所在地	下県郡美津島町黒瀬および箕形	調査主体	美津島町教育委員会
調査原因	遺跡整備	調査面積	200㎡
調査期間	平成９年９月24日～11月７日	処置	調査後埋め戻し
報告書	平成11年度刊行予定	遺跡番号	75-012

立地

金田城の整備にともなう発掘調査は平成５年に始まり，今年で５年目を迎えた。今年度の発掘調査は金田城内の通称ビングシ山（標高85m）の南斜面と，北西斜面および鞍部で実施した。ビングシ山南斜面は昨年度までの補完調査を目的とし，北西斜面は斜面途中にある平坦部の精査を行い，鞍部では土塁の断ち割り調査を実施した。

掘立柱建物跡

調査

（１）掘立柱建物跡

Ｎ１区では掘立柱建物跡１棟を確認した。検出した建物跡が立地する地点は，ビングシ山の北西斜面のなかほどにある。そこからは，門礎が発見された場所，およびその内側の広場を眼下に見下ろすことができる。

掘立柱建物跡は梁間１間，桁行２間の側柱(がわばしら)の建物跡である。柱間寸法は2.1m～2.2mで，唐尺に換算すると７尺ほどである。柱穴は円形で，直径50cm，深さ80～90cmを測り，岩盤を掘り込んでつくられている。ビングシ山山頂部で検出された掘立柱建物跡の柱穴に比較すると，ひとまわりほど小さく，プランも異なる。柱穴は５つ確認できたが，北側の側柱の１つは確認できなかった。

掘立柱建物跡は，周囲を溝や地山加工によって区画した平坦地に建てられている。すなわち南は幅10～15cm，長さ６ｍほどの溝で区切られ，北は岩盤が落ち込んでいる部分に客土し，平坦地をつくりだしている。北西隅の柱穴はこの客土を切って掘りこまれている。東側は列石と周堤によって区画している。西は岩盤がなだらかに落ちる現状だが，人為的に地山のカットが行われていると判断した。

また，建物の構造は，軒が溝中央部までの長さをもつ切妻型のものと推定される。

（２）屋外炉

Ｗ６区に北から南へ若干の傾斜がある。東側で炉跡を検出した。石囲い炉で，直径40cm，深さ５cmほどの炉穴を掘り，周囲は幅30cmほどの角礫で囲んでいる。石囲いを含めた直径は1.0mほどである。平面形は「コ」の字形を呈する。炉跡の南側の礫の表面は被熱し，赤褐色に変色している。炉穴

内には薄い炭の層が互層となって堆積していた。

なお，炉跡付近からは温石が１点出土した。

その他に北西隅でピット１基を検出した。ピット内は炭が混入した土で充填されており，炭の層が２～３枚残存していた。石塊は存在しないが，炉穴と考えられる。

またトレンチ中央部に直径20cmのピットを検出した。

二重構造の土塁

（３）鞍部（Ａ区）の土塁断ち割り調査

鞍部では，過去の調査において，門礎付近に高低差をもった２種類の石列が検出されている。これらの遺構は，その後の整備委員会において，時代が異なる新旧２つの遺構である可能性が指摘されていた。今回の土塁断ち割り調査は，時代差とみられるこれらの遺構の確認を目的として実施した。

ビングシ山の土塁は門礎を中心に鞍部を防御するごとく南北に開いている。今回の断ち割り調査は土塁の北端に近い部分を選定しておこなった。調査は土塁に直交するトレンチを設けておこなった。その結果，ここでも高低差をもつ３種類の集石を確認した。さらに現状の土塁下に別の土塁状遺構を確認した。

これらの遺構は過去の調査結果などから判断して，現在確認される土塁（後期土塁）の下に隠れていたもうひとつの土塁（前期土塁）と判断され，３種類の集石はそれぞれの土塁の基部の石（土留め用の根石）とみられる。

土塁の規模は前期土塁の長さ約5.5m（トレンチ中央最深部の集石から谷部の土留めの石までの長さ），高さ約1.6m（谷部の土留めの石から前期土塁の頂部までの高さ），後期土塁は幅約9.0m（鞍部の集石から谷部の土留めの石までの長さ），高さ約2.3m（谷部の土留めの石から後期土塁の頂部まで）である。

前期土塁の版築に用いられた土は北側の谷傾斜地の地山の赤褐色土を使用している。この赤褐色土はビングシ山では見つかっていない土である。前期土塁の断面観察によると版築の構造は幾重にも土を突き固めたものではなく，古墳の墳丘の盛り土のような状況を呈している。しかも版築構造は土塁の内側（鞍部側）斜面のみに存在するという構造をしている。

後期土塁は前期土塁を覆うように構築されている。土塁の断面観察によると，黄褐色土による粗い帯状の土盛りをおこなっており，前期土塁のような版築構造をもたない。

金田城の土塁がこのように二重構造をしている点については，同時期かつ同一工程のなかで造られたという意見と，時間差をもつ新旧の土塁であるという意見がある。

［調査担当：古門・田中・福井］（文責：古門）

④ 金石（きんせき）城跡

所在地	下県郡厳原町大字今屋敷地内	調査主体	厳原町教育委員会
調査原因	復元整備	調査面積	236㎡
調査期間	平成９年９月24日～10月24日	処置	現状保存
報告書	刊行予定	遺跡番号	74-017

立地

金石城は，北西と北東からの急峻な山に挟まれた標高10～13mの谷部に位置する。

城は，宗家14代将盛が1528（享禄元）年に金石屋形を造り，1678（延宝6）年まで国守の館として150年間存続している。

過去に，昭和51年・56年・57年・平成４年に調査を行った経緯がある。

発掘調査風景

調査

調査は，文化年間の金石城絵図に記された「泉水池」を基に復元整備の資料を得るために範囲確認調査を実施した。

調査区は，東西２本のトレンチと南北に１本のトレンチを設定し，池の構造・遺構の確認を行った。基本土層は，１層に約1.5mの客土があり，２層は近世～現代の遺物が出土する。３層は池の堆積土で暗青灰色である。４層は遺物に李朝期の青磁が出土している。

池の構造は，４層を切り，池底から３層上面で70cmを測る。池底は，暗青色弱砂質土と赤褐色粘土を交互に重ねて水が漏らない構造としていた。池底上面は，粘土の流失及び景観を見せるため玉砂利（３～５cm）を敷いていることが確認された。池の中にある中島は，４層の上に２枚の黄色土を版築し，巨石を乗せていた。護岸の石については，黒色の丸味を持つ石を用いている。池の掘り込みは，東西トレンチ２本の東側と南北トレンチの北側で確認することができた。

その他の遺構として，石組溝２本と石垣を確認した。溝は，１本が幅約50cm，深さ30cmを測り，もう一方は幅110cm，深さ60cmを測る。石垣は，高さ約1.5mで長方形をした石を積み重ね溝と平行して築かれている。

まとめ

池の構造は確認できたが，池の形状については不明である。また，池の構築年代は，池底から時代を確認できる遺物がなく構築年代が明らかでないこと及び絵図に存在しない遺構を検出する等不明な問題が多く，今後調査による解明が期待される。　［調査担当：町田・小磯・宮川］（文責：町田）

⑤ 馬乗石遺跡（うまのりいし）

所在地	下県郡厳原町豆酘字馬乗石	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	農道新設	調査面積	46㎡
調査期間	平成９年９月29日～10月17日	処置	調査後工事
報告書	長崎県文化財調査報告書第149集『馬乗石遺跡』	遺跡番号	新発見

立地

馬乗石遺跡のある豆酘の地は，厳原町の南西端に位置し，三方を山に囲まれ南に対馬海峡と面する。神田川・乱川の河川が流れ，神田川の流域は神域として人が住まなかった地域であり，乱川に沿って民家が建ち並ぶ。

遺跡は神田川の西岸に位置し，付近には保床山古墳などが知られる。

遺跡風景

調査

平成７年度の農道整備事業の計画に伴い事前に工事予定地の分布調査を行い，古墳らしき土盛りとその周辺から須恵器や高麗青磁等を表面採集し，発掘調査の必要性を確認するところとなった。

調査は，遺跡の土盛りが古墳の可能性があったことから，石室の有無を確認するため幅１ｍのトレンチを東西南北に十文字に設定し，約1.6ｍ掘り下げた。結果，石室は確認できず古墳でないことが判明した。また，周囲に調査坑を２カ所設定したが生活跡等は確認できなかった。

土盛りの土層の状況は，１層は表土で礫を多く含む，２層は灰黄色土層，３層は礫層，４層が赤褐色粘質土層となり，４層から中世の輸入陶磁器が出土するなどしたため中世以降の堆積が考えられる。　遺物は数量のわりに種類が多く，土師器・須恵器・輸入陶磁器等，５世紀から16世紀の遺物が出土した。　［調査担当：村川・宇土・荒木］　（文責：宇土）

⑥ 茶園（ちゃえん）遺跡

所在地	南松浦郡岐宿町	調査主体	岐宿町教育委員会
調査原因	圃場整備	調査面積	350㎡
調査期間	平成９年５月６日～６月18日 平成９年９月29日～10月25日	処置	調査後工事
報告書	平成９年度刊行	遺跡番号	63-006

立地

遺跡は，岐宿町岐宿郷に所在する。標高10～20ｍの低平な溶岩台地で，南側に緩く傾斜した湿地帯の周辺に位置する。

調査成果

ナイフ形石器群：今峠型ナイフ形石器や台形石器などからなる石器群で，萩原編年の後期中葉段階にあたる。

細石刃石器群：位牌塔型細石核を主体に「野岳・休場」型細石核が組成される石器群である。扁平な位牌塔型細石核は，背面に横方向から丁寧な調整剥離が入るものと，自然面を背面とするものがある。量的には後者が圧倒的に多く，細石核の素材として黒曜石原石の大きさに制約された姿を呈している。細石刃は若干幅広のものが多い。その他の石器には，掻・削器・楔形石器・打面再生剥片などからなり器種的には貧弱である。

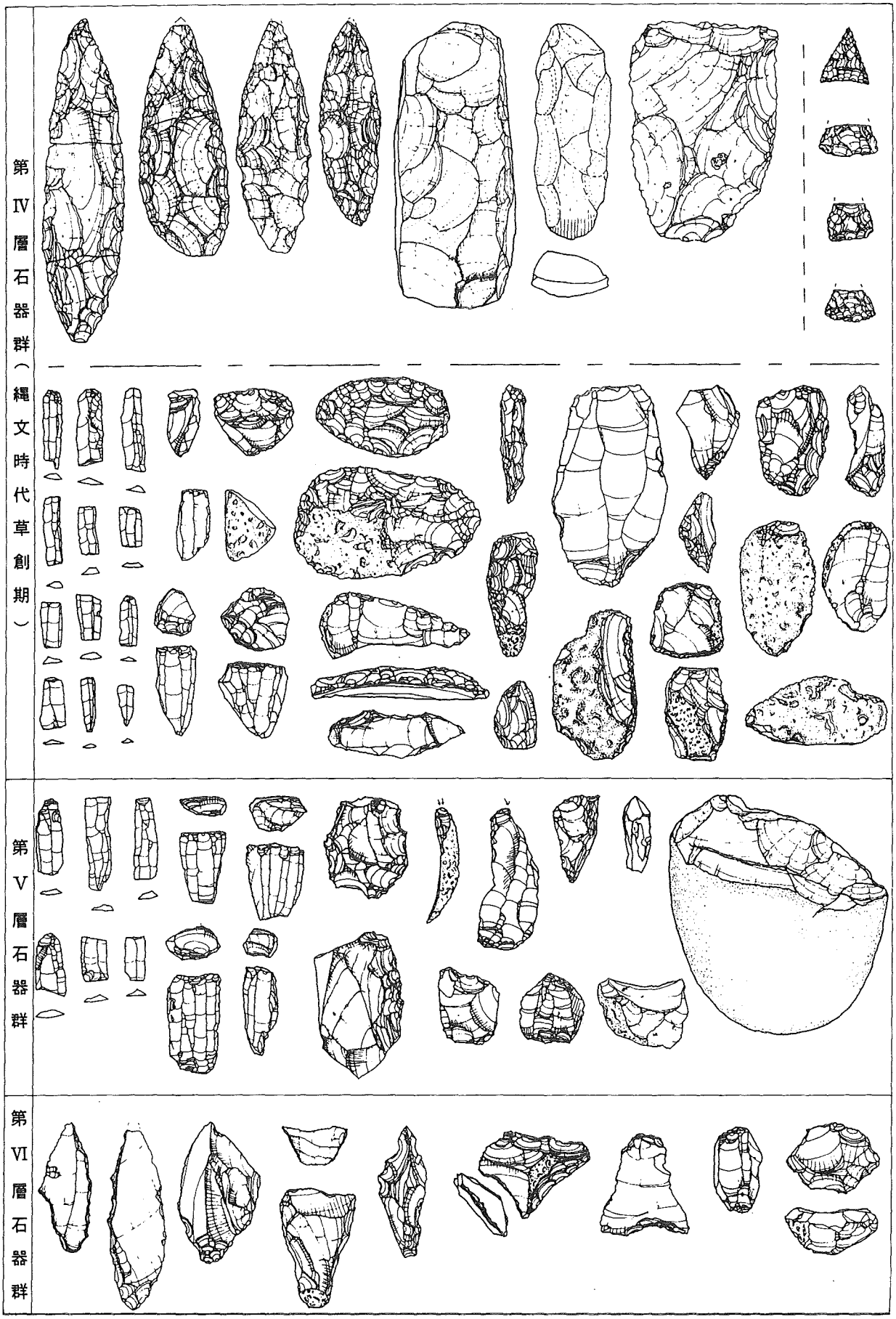
縄文時代草創期石器群：本石器群は削片系細石刃石器群に「神子柴系石器群」が伴う。舟底形細石核は出土していないがブランクは数点ありその存在は確実であろう。その他には削片系の縦長スポール・スキー状スポール，打面再生剥片などがある。細石核は広義の西海技法によるものやいわゆる「野岳型」といわれるものがある。神子柴系石槍は安山岩を多用し，断面が凸レンズ状になる。石斧は片刃で局部磨製がみられることから神子柴系の範疇に入るものと思われる。

縄文時代早期：押型文土器が大量に出土している。楕円・山形・連珠などの文様がある。石器には平面系が正三角形をなすものや幅広で深い抉りの入る石鏃など目立つ。

成果と課題

今回の調査で，ナイフ形石器群→細石刃石器群→縄文時代草創期石器群→縄文時代早期という変遷が明らかになった。西北九州では火山灰の堆積に恵まれることが少なく，まして細石刃石器群が層位的に出土する例は皆無であった。今回最大の成果は細石器の層位的検出にある。しかも「野岳・休場」型細石核は従来良好な状態での発掘例が乏しく，その意義付けについては表採資料をもとにした鈴木忠司氏の業績に頼るほかなかった（鈴木1971）。茶園遺跡ではその石器群の内容を明らかにするとともに，扁平な位牌塔型の時間的位置についても新たな知見を得た。

［調査担当：川道・宇土・東・荒木］（文責：川道）



茶園遺跡・編年表

⑦ 城岳（しろたけ）城跡

所在地	南松浦郡奈留町城岳	調査主体	奈留町教育委員会
調査原因	無線局建設	調査面積	28㎡
調査期間	平成９年７月７日～11日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	64-001

立地と環境

遺跡は，五島列島の中央部に位置する奈留島の中央部にある。奈留島は四方に岬が突き出ており，各所に良港をもつことから古代から航海上の拠点となっていた。遣唐使の寄港地としても知られている。中世には在地土豪の奈留氏がここを拠点として活躍しており，城岳城も奈留氏の山城であるとされている。

遺跡近景

調　査

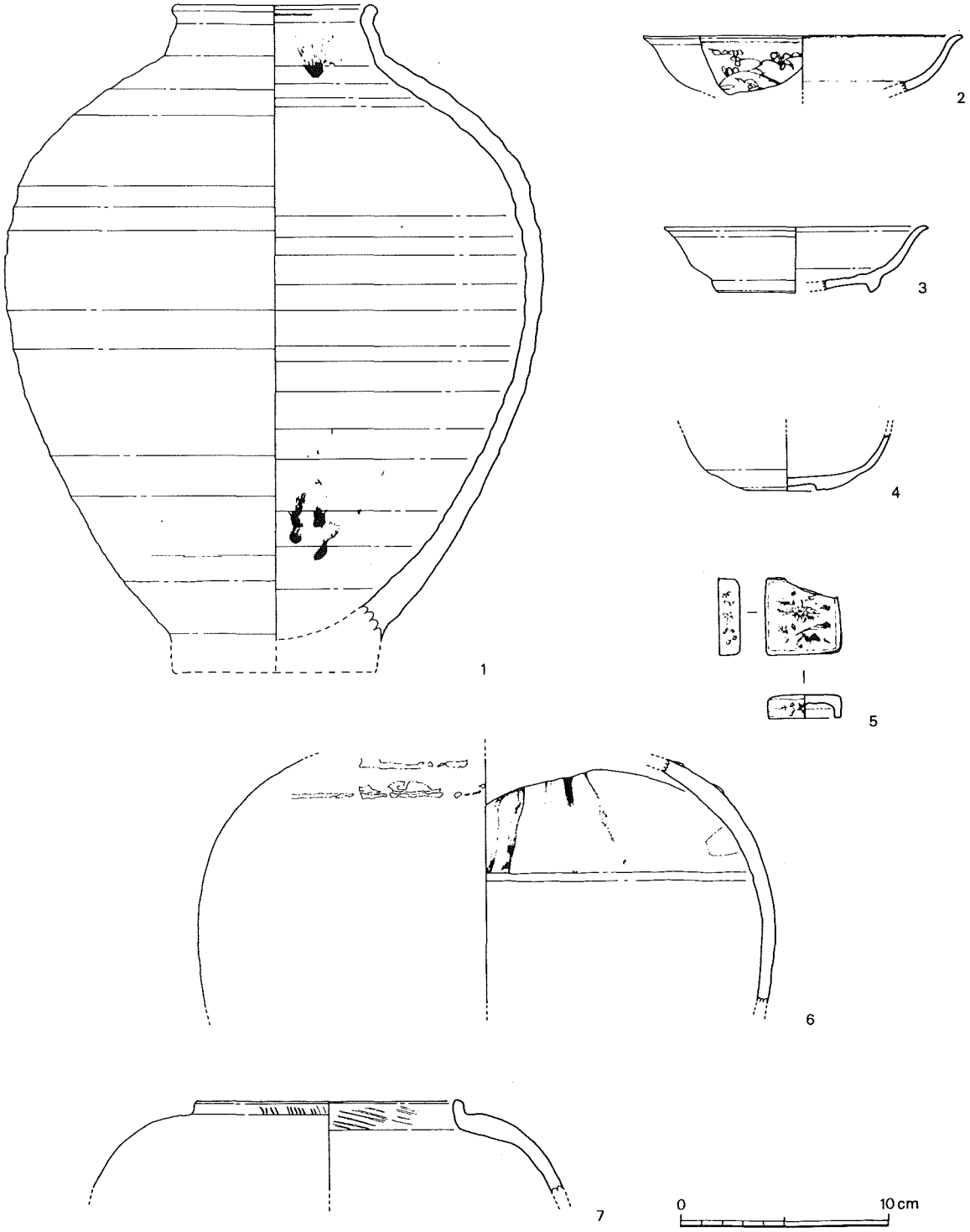
調査は城岳（標高186m）の頂上部から緩斜面の工事区域にあわせて，トレンチ及びグリッドを設営しておこなった。表土の腐植土を取り除くと安山岩の基盤が露出し，表土との間に僅かに風化土が堆積していたが，遺構等の検出はなかった。トレンチ南西側に，岩盤に張り付くように遺物が出土する場があったが，遺物の出土範囲が一部であることや，この一帯が公園化により一度削平されたとのことから，後世の流れ込みや削平の及ばなかったこの部分にだけ遺物が出土したものであろう。

遺　物

１は，黒釉陶器壺である。低部から胴部はやや丸みを帯びながら，上部で肩が張り，口縁はやや内傾して頸は短い。口縁も胴部径に対し小さく，口縁端部は丸く作り出されている。胴部の肩部を中心に波をうつように整形しているが，低部付近になると直線的になる。釉は内部に茶色の釉を全体に施釉し，表面は，肩部を中心に黒色，肩部下半部にいくに従い茶色味を帯びる。高台際を残し全体的に施釉されている。６も黒褐釉の壺で、内面も薄く施釉する。焼成はやや不良で、肩部上位に重ね焼きの目跡がみられる。２は明の染付皿，３は端反りの白磁碗，４は碁笥底の白磁皿である。５は染付で菊花を描く四角形の合子の蓋である。全体に釉を施すが，縁の部分は露胎。これらの遺物については，２の染付皿や３・４の白磁碗の出土から，15世紀～16世紀代に位置づけ可能であろう。７のような土師質の短頸壺も出土している。茶釜の可能性が強く，壺などの出土からもセット関係として捉えられよう。

まとめ

標高186mという高所にありながらこれだけの遺物を出土するということは，中世奈留氏の海外との密接な関わりを示唆するとともに，豊富な舶載陶磁器は，この地になんらかの施設が存在した可能性をも示していよう。施設については常駐的なものが考えられ，７の土師質の短頸壺（茶釜？）や壺の出土がそれを物語っている。　［調査担当：福田］（文責：福田）



城岳城跡出土遺物

⑧ 石田城跡（いしだ）

所在地	福江市福江町字東町７番地	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	県立五島高校校舎建設	調査面積	251㎡
調査期間	平成９年11月17日～12月19日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	06-047

立地

石田城の築城は，1849（嘉永２）年第30代盛成に始まり1863（文久３）年第31代盛徳で完成している。

石田城の位置は，福江港から南西へ約400mの標高５～10mにある。

調査状況

調査の経緯は，五島高校校舎改築に伴い平成７年度・８年度・９年度に調査を終了していたが，改修に伴う各種埋設工事については協議の対象になっておらず，汚水・配電等の設置部分の掘削中に石垣遺構発見の報告があった。このため，現地において遺構を確認し保存についての協議を行ったが，工事計画の変更は不可能であり，緊急調査の実施となった。

調査

平成９年６月19日～６月20日に石田城本丸部分の工事立会を行い調査の必要はないと回答を行う。平成９年11月17日～12月19日に遺構発見の報告を受けて緊急調査を実施する。

調査は，絵図に記載された部分を工事行程に沿って「中仕切門」・「めがね橋門」・「御築山門」・「大手門」・「中門」・「建物跡」について行った。土層堆積状況は，1872（明治５）年に陸軍省の所管となった折りに門を解体し石垣を埋めたものと見られ，１～2.5mの堆積が確認できた。遺構は，４ヶ所の門跡部分に袖石垣を検出し，大手門入り口は，門礎石を２基確認した。中門は「アマカワ」を張った状況を確認した。この他，暗渠排水の石組溝・石段・内堀の外側及び内側の石垣を検出している。

まとめ

石垣遺構を「中仕切門跡」・「めがね橋門跡」・「御築山門跡」・「中門」に検出した。暗渠排水溝は，「めがね橋門跡」・「御築山門跡」で確認した。「中門跡」はアマカワを門の入り口に張っている状況を確認した。

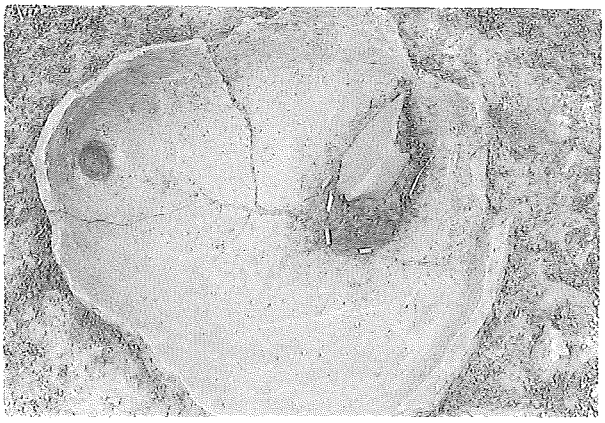
［調査担当：工事立会　甲斐田，緊急調査　藤田・町田・宇土・永嶋］（文責：町田）

⑨ 長畑馬場遺跡（ながはたばば）

所在地	北松浦郡大島村戸田免字長畑	調査主体	大島村教育委員会
調査原因	中山間地域総合整備事業（圃場整備）	調査面積	140㎡
調査期間	平成９年９月29日～10月17日	処置	平成10年度本調査
報告書	平成11年度刊行予定	遺跡番号	47-037

立地

長畑馬場遺跡は，的山大島の南西部に突き出た半島の中央部に立地する。遺跡の周辺は南方に緩やかに下がる低位溶岩台地である。海岸線は南側が断崖，東側が礫浜海岸となっている。海岸からの距離は約200m，標高は35～45mを測る。



１号カメ棺出土状況（本調査時）

調査

圃場整備の対象となっている区域に，25mごとに２×２mの試掘坑を設け調査をおこなった。なお，明らかに削平されている場所は対象から外し，地形や遺物の出土状況に応じて試掘箇所を増やした。

遺跡の範囲の南東部分の試掘坑から，弥生時代の包含層と基盤に掘り込まれたピットが検出され，ピット中から弥生土器の底部が出土した。

遺跡の北西部は低位溶岩台地の最頂部にあたるが，土壌の流出が激しいためほとんどの試掘坑は20～30cmで玄武岩の基盤に達した。第１層の耕作土からは黒曜石剥片等が出土したが，包含層や遺構は確認できなかった。遺跡の中央部分と北西端は土壌が１m以上に達する箇所もあったが，全て第１層の流れ込みや盛土で，ここからも包含層や遺構は確認できなかった。また，遺跡の南端部分は傾斜が急な斜面を削平した畑であったため，試掘坑は設定しなかった。

まとめ

今回おこなった範囲確認調査の結果，遺跡範囲の南東部分に包含層と遺構が確認され，事業計画が変更されない場合は本調査が必要であると判断された。なお，この区域についての発掘調査が平成10～11年度におこなわれる予定である。

［調査担当：甲斐田・東］　（文責：大浦）

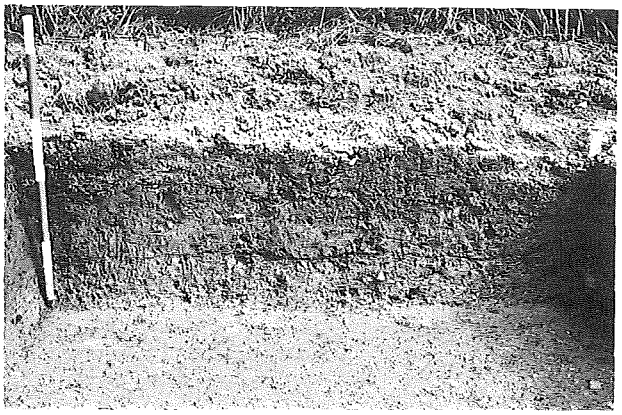
⑩ 水ノ元（みずのもと）池遺跡

所在地	北松浦郡大島村大根坂免字水ノ元242	調査主体	大島村教育委員会
調査原因	中山間総合整備事業に伴う道路建設	調査面積	20㎡
調査期間	平成９年９月８日～12日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	47-025

立地・調査

水ノ元池遺跡は大島のほぼ中央部に位置する遺跡で，弥生土器片や黒耀石片などが採集されており周知されていた。今回，道路拡張工事に伴い，範囲確認調査をおこなうこととなり，道路拡張部に２×２ｍの調査区を５カ所設定した。調査の結果，黒曜石のチップ数点が確認されたものの，包含層は概に破壊された状況であった。このため工事に支障はないものと判断し，調査を終了した。

［調査担当：東］（文責：福田）



調査区土層状況

⑪ 菰蓋（こぶたいけ）池遺跡

所在地	北松浦郡大島村大根坂免菰蓋187	調査主体	大島村教育委員会
調査原因	中山間総合整備事業	調査面積	24㎡
調査期間	平成９年９月16日～19日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	47-024

立地・調査

菰蓋池遺跡は島のやや北部の山間部に位置し，周辺は急傾斜の山々が連なっている。菰蓋池を水源として周辺の山々は開墾されており，この今回の調査は，池から約200ｍの所に位置し，道路拡張部分に２×２ｍの試掘壙を６箇所設定した。表土下は玄武岩の地山層が露出し，遺物等も見られなかった。このことから，この地区もまた開墾時に削平されたものと思われる。［調査担当：東］（文責：福田）

遺跡遠景

⑫ 岳崎古墳（たけざき）

所在地	北松浦郡田平町岳崎免	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	調査面積	210㎡
調査期間	平成９年９月29日～11月14日	処置	調査後埋め戻し
報告書	平成10年度刊行予定	遺跡番号	51-011

立地

本古墳は，長崎県の本土部をしめる北松浦半島の北端に近い場所にある。壱岐水道を挟んで，壱岐の島や佐賀県の馬渡島など，玄海灘西端部の島々が見渡せる丘陵上の先端で，標高20mほどあり，北側はそのまま海に没している。

調査

平成元年度からの県内重要遺跡の調査対象となったもので，県内でも規模の大きさからすれば五指に入るものである。平成元年度は墳丘の規模の測量のみにとどまったもので，平成９年度の調査では墳丘の築造過程・埋葬主体部の形状や規模の確認などを主な目的としたが，規模の大きさはもとより埋葬主体部の大きさやそれに伴う排土の問題，木根の処理に要する問題，さらには出土遺物の処置に対しての準備など，諸々の事情が重なり予定通りの調査とまではいかなかった。

墳丘

県内有数の大きさで，形のととのった状況であることはよく知られていた。今回の調査で知り得たところでは，全長60m強，後円部の直径は36m，高さ７mであるが，後円部の南側がいくぶん削られているため若干大きくなる可能性はある。後円部の頂上部分は直径13mほどが平らな面となっている。墳丘は主軸をほぼ東西にとり，海上から見た場合にその規模を雄大に見せるように計算されていたものと考えられる。墳丘の斜面部分には海岸から運んだと考えられる，人頭大かそれ以上の円礫を葺いている。墳丘には埴輪や供献の土器などは認められなかった。

内部主体

現墳丘表面下に1.5×1.5mほどの板石数枚を被せた，最低２箇所の埋葬あるいは収蔵用の空間があることが，地中探査レーダーの調査によって判明した。また，石材の間は，青白色の粘土で丁寧に目張りがなされている。この空間の深さは70cmほどある。前方部でのこれらに類する施設の有無については確認していない。

埋葬主体部の調査風景

［調査担当：藤田・永嶋］（文責：藤田）

⑬ 岳崎（たけざき）遺跡

所在地	北松浦郡田平町岳崎免	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	県道改良工事	調査面積	36㎡
調査期間	平成10年３月23日～27日	処置	調査後工事着工
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	51-012

立地

本遺跡は，玄海灘の壱岐水道に臨んだ北松浦半島の北側に面した低平な台地上に位置している。遺跡周辺には，久吹遺跡（旧石器時代），久吹浜遺跡（縄文時代），里田原遺跡（縄文～弥生時代），岳崎古墳（古墳時代）等の遺跡が立地している。

遺跡は，旧石器時代から縄文時代にかけての遺物が広範囲に採集される複合遺跡で，今回の調査地点は遺跡の東側部分で標高約32m，西側部分で約20mの小高い丘と丘の鞍部にあたる。

調査

調査対象範囲内に２m×２mの試掘壙を８箇所（ＴＰ－１～８）設定し，調査を行った。

ＴＰ－１～４は，既存の道路工事の際に削平後盛土されているため攪乱が著しい。

ＴＰ－５，７，８は表土下地山に至る。

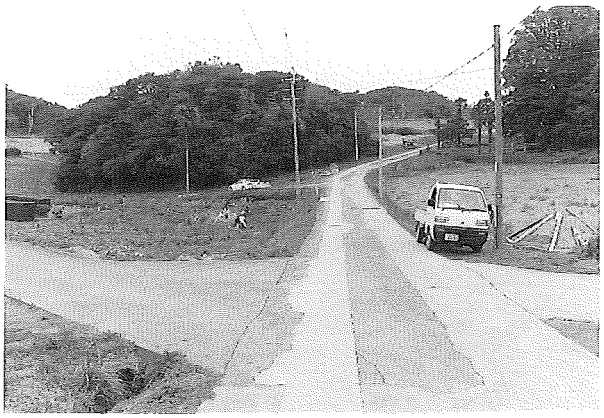
ＴＰ－６は，焼土と炭化物を含む土壙が検出されたので拡張して確認した。

まとめ

試掘壙８箇所の内，ＴＰ６で確認した土壙は，炭焼き窯の一部と考えられるが大部分が破壊されて形状等不明であり，時期等についても出土遺物も無く不明である。

今回の調査対象区は，遺跡の中心部から外れた部分にあたると考えられる。

［調査担当：副島・荒木］（文責：副島）



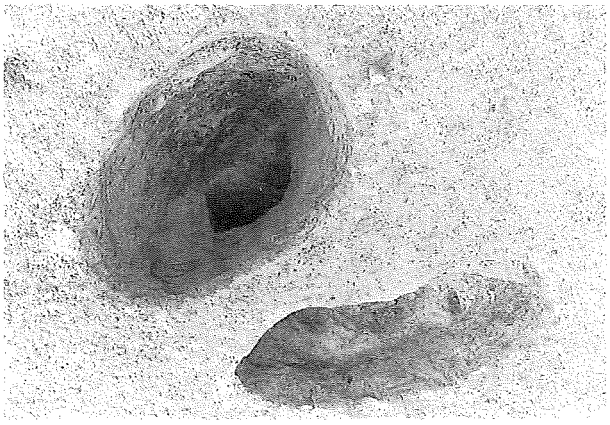
遺跡近景

⑭ 広久保（ひろくぼ）遺跡

所在地	北松浦郡江迎町栗越（くりこし）免	調査主体	江迎町教育委員会
調査原因	農地再編事業	調査面積	400㎡
調査期間	平成９年11月19日～12月20日	処置	調査後工事
報告書	平成９年度刊行	遺跡番号	54-009

立地

広久保遺跡は，江迎町の北東部に位置し松浦市との境界までは約500ｍほどの距離にある。標高180ｍの等高線に沿って東西200ｍ南北150ｍほどの緩やかな丘陵があり，その一帯が広久保遺跡として周知されている。付近に河川はないが，近くにはアカニタ池，箙尾（えびらお）池などの沼沢があり，特にアカニタ池の周辺に石器片，土器片の散布がみられ，アカニタ遺跡として知られている。調査地点は北東から南西に緩やかに傾斜する丘陵の鞍部に位置する。調査地点より東に150ｍのところに湧水点があり，往時も利用されていたとみられる。



連穴土坑

調査

調査はグリッド法でおこなった。グリッドは国土座標Ⅰ系を使用し，８ｍ×８ｍのメッシュを組んだ。南北の杭列にそれぞれＡ～Ｄ，東西の杭列にそれぞれ１～４の番号を与え，個々のグリッド名は南東の杭が示す符合を使用した。

遺跡の基本層位は耕作土（第１層）の直下に縄文早期末（手向山式段階）の遺物包含層（第２層・黄褐色土層）が30cmほど残存している。この土層は乾くと粘性がなく，フカフカとしているが，水分を含むと粘性を帯び，赤土となる。礫などは含まず，均質な土層である。分層はできない。第３層の下には黄褐色粘質土層（第３層）が存在する。厚さは50～60cmほどである。漸移層で分層は困難であった。無遺物層である。第３層の下には赤褐色粘質土（第４層）が存在する。基盤層である玄武岩の風化土層で，無遺物層である。

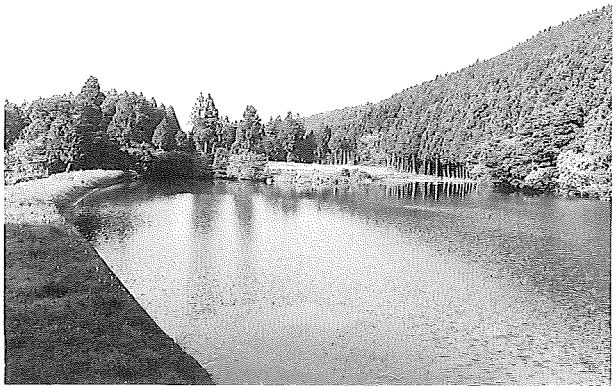
遺構は集石土坑と連穴土坑を検出した。集石土坑はＢ４グリッドの東側で出土した。直径60cmで，深さは９cmと浅い。炭化物と焼土を含んでおり集石土坑と判断した。煙道付き炉穴（連穴土坑）はＢ３グリッドの第２層調査時にグリッド北東部で第３層に切り込んで煙道付き炉穴が出土した。長軸を南北方向にとる２基の楕円形土坑が東西方向に並び，それぞれが沿道によって連なっていた。東側土坑は長軸1.3ｍ，短軸0.7ｍ，深さ0.5ｍである。西側土坑は長軸1.2ｍ，短軸0.8ｍ，深さ0.7ｍである。東側土坑の北壁には段を有し，いくつかの浅い掘り込みがある。土坑内には黒色土が充満していた。炭や有機物を含む土である。煙道は長さ0.5ｍで，トンネル状となっている。東西それぞれの煙道入口は，東側が直径18cm，西側が直径25cmである。　［調査担当：古門・小松］（文責：古門）

⑮ 串田池遺跡（くしだいけ）

所在地	北松浦郡吉井町梶木場免	調査主体	吉井町教育委員会
調査原因	広域農道工事	調査面積	34㎡
調査期間	平成９年11月25日～12月５日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	58-012

立地・調査

遺跡は，吉井町梶木場免に所在する。遺跡の標高は310ｍ前後を計るが，この付近は地形変換点にあたっており，湧水が豊富で溜池が数多く造られている。こうした好条件下に溜池の周辺には多くの遺跡が確認されている。串田池遺跡もその一つで，今回広域農道工事にかかるために範囲確認調査を実施した。調査は２×２ｍおよび１×２ｍの試掘坑を９箇所設定し調査した。



遺跡近景

調査の結果，遺物包含層は確認されなかった。土層は２層に区分される。表土：耕作土，第２層：明赤褐色粘質土層で粘質が強く，人頭大の風化礫を混入する。遺物としては２点の剥片が出土しているが，いずれも畑造成時に混入したものと考えられる。その結果，調査地点周辺は遺跡の可能性は低いものと思われる。

［調査担当：東］（文責：川道）

⑯ 泻脇遺跡（がたわき）

所在地	北松浦郡鹿町町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	江迎港港湾整備計画	調査面積	24㎡
調査期間	平成９年８月18日～22日	処置	調査後工事着工
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	55-003

立地・調査

泻脇遺跡は鹿町町の北西海岸部に位置する。大形凹文土器と縦形及び横形の石匙などが表採資料としてある。この海岸部には下り松遺跡・黒崎遺跡・歌ヶ浦遺跡などが点在し，縄文時代にはこれらの地域が生活の場として適していたことを示す。黒崎遺跡では石鏃等，下り松遺跡では曽畑式土器や石匙等，歌ヶ浦遺跡では黒曜石製石鋸が１点表採されている。今回は平成９年３月に江迎港港湾整備計

画事業に伴い，分布調査が行われ時期不明の土器２点と大型黒曜石剥片１点が採取されたため，試掘調査となった。調査は潮が引いた干潟を中心に２×２ｍの試掘壙を６箇所設定し行われた。結果はいずれの試掘壙からも遺構・遺物等の発見はなかった。

［調査担当：村川・小松］（文責：小松）

遺跡近景

⑰ 関里（せきさと）遺跡

所在地	北松浦郡鹿町町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	江迎港港湾整備計画	調査面積	８㎡
調査期間	平成９年８月18日～22日	処置	調査後工事着工
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	55-002

立地・調査

本遺跡は鹿町町口ノ里免に所在する。前述の浮脇遺跡などと同様に鹿町町の北西海岸部に位置する。かつて故大浦久雄氏により磨製石斧・サヌカイト製剥片が採取されている。今回は江迎港港湾整備計画事業に伴い，平成９年３月に分布調査が行われ試掘調査を実施することになった。潮が引いた干潟を中心に２ｍ×２ｍの試掘壙を２箇所設定し調査を実施した。結果，いずれの試掘壙においても遺構・遺物の発見はなかった。

［調査担当：村川・小松］（文責：小松）

調査風景

⑱ 玖島（くしま）城（大村城）跡

所在地	大村市玖島郷34番地他	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	国道34号線建設	調査面積	57.5㎡
調査期間	平成９年６月２日～13日	処置	本調査実施予定
報告書	刊行予定	遺跡番号	05-132

立地

玖島城は，1599（慶長４）年大村家第19代喜前の時代に築城された平山城である。

遺跡近景

調査地点は，標高約２ｍの国道34号線に沿った道路拡幅計画の西側公園部分である。計画地区は，喜前の弟の純宣及び大村家一族の居住した「桜田屋敷」や集義館（1670年），静寿園（1694年），五教館，治振軒（1790年）等の大村藩の学問・武道の修練場を開いていたと言われる場所である。また，1702（元禄15）年23代純尹によって「花林軒」と称する庭園を築いているが，これは現在の池及び築山周辺と推定される部分である。この他，庭園南側は大村連隊区司令部として明治21年～昭和20年まで設置されていた地所である。

調査

調査は，公園の植栽物を避けて北から南へＴＰ－１区～７区の計７ヶ所を任意に設定した。

基本土層は，１層腐植土・２層暗茶色土・３層茶褐色土となるがＴＰ－１・２区の堆積土は黒灰色を呈し炭化物を含む層である。４層は全調査区が黄褐色土の整地層で玖島城築城後の埋め立て客土と考えられる。

遺構は，整地層に近世の建物跡礎石・安山岩を用いた石段と庭園池の淵・大村連隊区司令部跡の煉瓦基礎を検出した。

遺物は，江戸時代前期から幕末・近現代に至る陶磁器・ガラス・瓦等がパンコンテナ４箱分が出土した。

まとめ

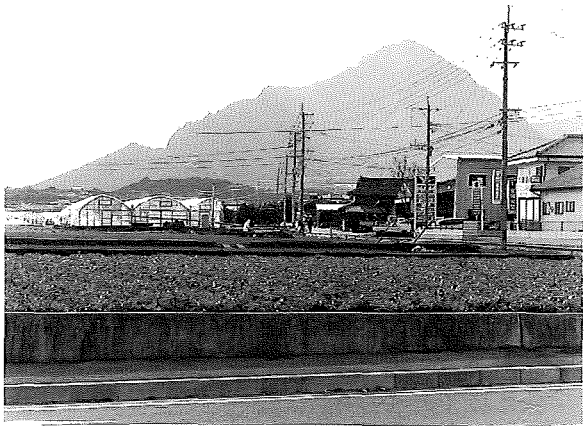
ＴＰ－１・３・７区から建物跡の礎石を検出し，遺構に伴う遺物として陶磁器・瓦等の江戸時代の遺物が出土している。これらの遺構は，桜田屋敷，集義館，静寿園，五教館，治振軒等の建物に関連すると見られる。また，ＴＰ－４・５区は，大村家第23代純尹の築造といわれる庭園遺構（花林軒）の一部である石段及び池の淵を確認した。　［調査担当：町田］（文責：町田）

⑲ 稗田原遺跡（ひえだばる）

所在地	島原市稗田町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	県道拡幅	調査面積	24㎡
調査期間	平成９年12月１日～５日	処置	平成10年度本調査
報告書	平成10年度刊行予定	遺跡番号	03-032

立地

稗田原遺跡は島原市の北側，東に有明海を見下ろす雲仙山系北東麓の火山性扇状台地に位置し，東西700ｍ，南北450ｍに広がる。調査対象地である県道沿いは水稲・畑作が営まれるが，近年宅地化されつつある。周囲には北に景華園遺跡，南東に沖田畷古戦場などが知られる。



遺跡近景

調査

平成９年３月まで調査が行われた礫石原松尾停車場線と直交する野田島原線道路の拡幅部分南北約300ｍの範囲確認調査であり，用地買収のすんだ約200ｍを対象に２ｍ×２ｍの試掘坑を６箇所（ＴＰ１～６）設定して調査を行った。

結果，遺構などは確認できなかったがＴＰ６を除くすべての調査区から須恵器・土師器などの遺物が出土したため，拡幅工事対象地のＴＰ６付近を除いた1,340㎡について本調査が必要と判断された。

［調査担当：村川・宇土］（文責：宇土）

⑳ 長戸鬼塚古墳（ながとおにづか）

所在地	北高来郡小長井町	調査主体	小長井町教育委員会
調査原因	整備保存	調査面積	400m²
調査期間	平成９年11月10日～21日	処置	調査後整備保存
報告書	小長井町文化財調査報告書第１集『長戸鬼塚古墳』	遺跡番号	30-029

立地

長戸鬼塚古墳は小長井町の南東，有明海に南に突き出た溶岩台地の岬である帆崎の先端部に立地する。古墳の周辺は西側は小深井川河口の湾，南側は有明海が間近に迫っており，東側は浅い谷筋で水田，北側は畑地となっている。海岸からの距離は約30m，墳頂の標高は約19mを測る。

調査

今回の調査は，羨道部入り口東側の天井石直下の側壁が崩壊の危機にあり，整備復元の資料を得るために実施した。

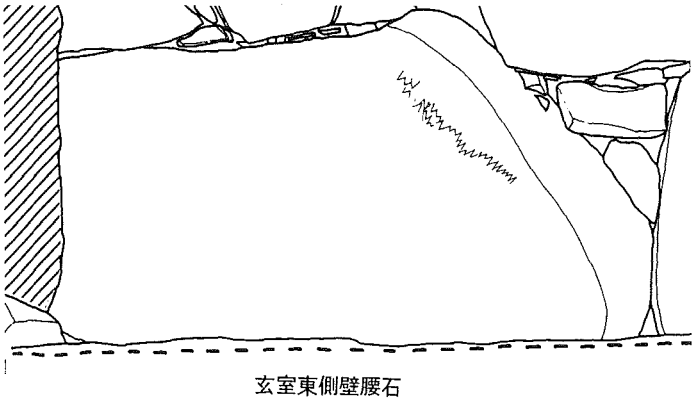
墳丘

古墳は径17m程度の円墳で，高さは4.5mほどである。墳丘には人頭大の海浜礫が数多く露出しており，墳丘全面に葺石されていたらしい。

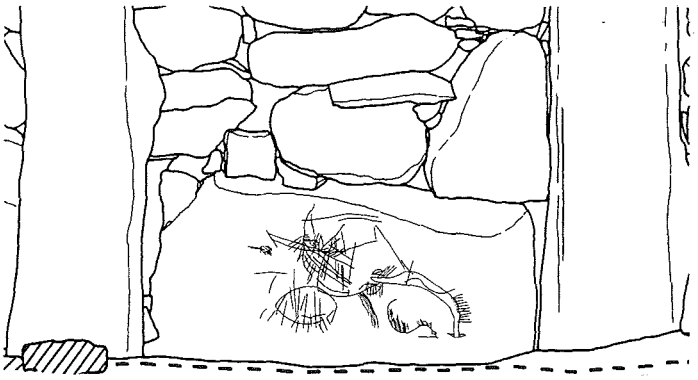
石室

主体部は，南東に向いて開口する横穴式石室で，前室と玄室の２室をもつ複式構造で，石室の全長は11.3m。玄室は若干幅が狭まる羽子板状を呈する。天井部にいくに従って幅が減少する持ち送り構造である。

前室の側壁には一枚の腰石を配している。西壁の塊石の積み方は目地が直線的に通った典型的な重箱積みがみられる。西側の腰石にはクジラなどの線刻がある。



玄室東側壁腰石

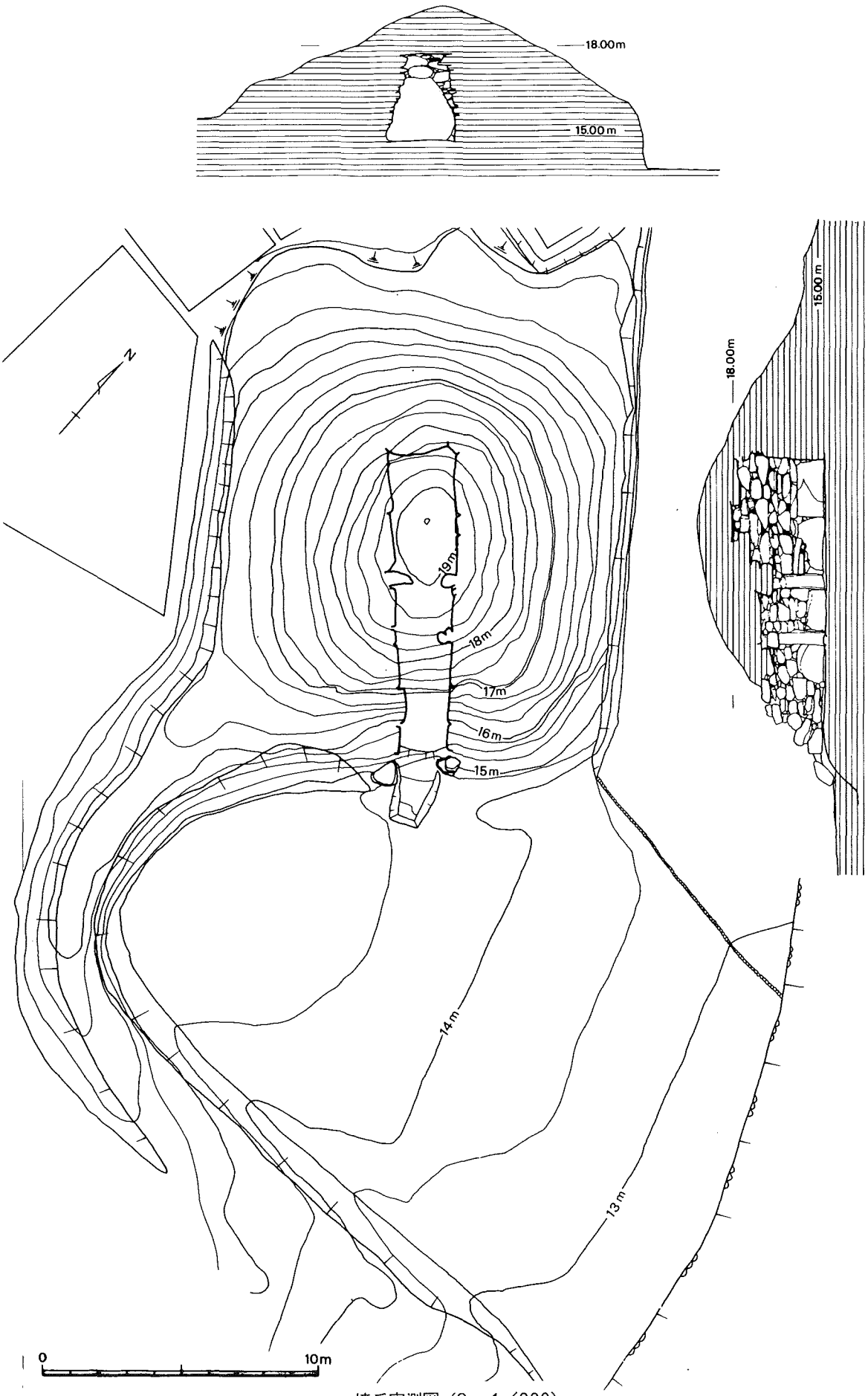


前室西側壁腰石

0　1m

まとめ

長戸鬼塚古墳は有明海を舞台に活躍した有力者の墳墓であり，石室の構造や線刻画の存在など佐賀県杵島山麓の古墳と酷似している。クジラなどの線刻画も類例が少なく，保存状態も良好であり，整備復元された後の活用が期待される。［調査担当：川道・甲斐田］（文責：川道）



墳丘実測図（S＝1／200）

㉑ 山の寺梶木遺跡

所在地	南高来郡深江町大字田中字山の寺	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	主要遺跡内容確認調査	調査面積	117㎡
調査期間	平成9年9月8日～10月2日	処置	調査後埋め戻し
報告書	平成10年度刊行予定	遺跡番号	46-005

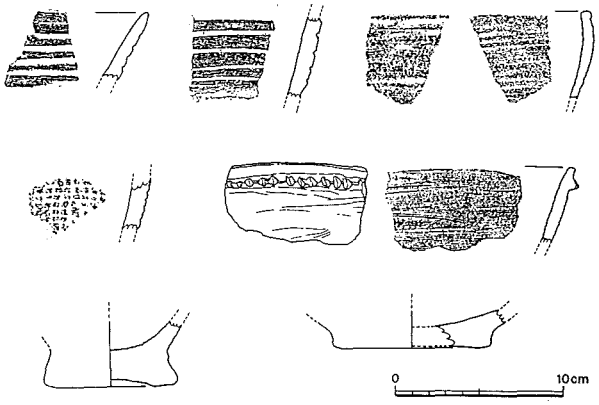
立地

島原半島の東側に位置する深江町は，雲仙山系を中心とした三角形状を呈する。その頂点に位置する山の寺梶木遺跡は，平成2年に噴火を始めた普賢岳と至近距離にあり，古代より噴火災害とともにあったものと思われる。ただ，緩傾斜面にあるため，火山灰の堆積土は常に東側流域に流されたものと思われ，土層の堆積は薄く，基盤の安山岩層がすぐに露出する。

調査風景

調査

山の寺梶木遺跡は，昭和32年より数度の調査を経た結果，稲作農耕との関連で重要な遺跡であることが知られていた。本遺跡出土の土器は，山の寺式の形式名が設定され，九州の縄文晩期の編年上重要な位置づけがなされた。現在，山の寺式土器については晩期におけるローカル的な特徴として捉える傾向もあるが，学史上山の寺梶木遺跡の果たした役割は大きく，今後も九州の晩期土器を研究するうえでは重要な位置を保つことは間違いない。今回の調査は，山の寺梶木地区の台地上に任意に2×2mのグリッドを設定し，遺跡の範囲と現況を把握することを目的とした。その結果，包含層の2層の堆積は薄いばかりか，開墾や耕作による深耕によってかなり遺跡の範囲が限定されることがわかった。このことについては，昭和初期の調査の時点でも指摘されていた地点があり，地表面からの包含層の薄さが，この遺跡の破壊に大きく関与したものと思われる。昭和32年の調査で山の寺式土器が大量に出土した地域では今回も遺物の出土が多少みられ，この付近については包含層の堆積があるものと判断される。



出土遺物

［調査担当：福田・永嶋］（文責：福田）

㉒ 蒲河（かまが）遺跡

所在地	南高来郡有家町蒲河名	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	港湾整備	調査面積	100㎡
調査期間	平成９年５月６日～27日，６月３・４日	処置	調査後工事
報告書	長崎県文化財調査報告書第142集『蒲河遺跡』	遺跡番号	44-062

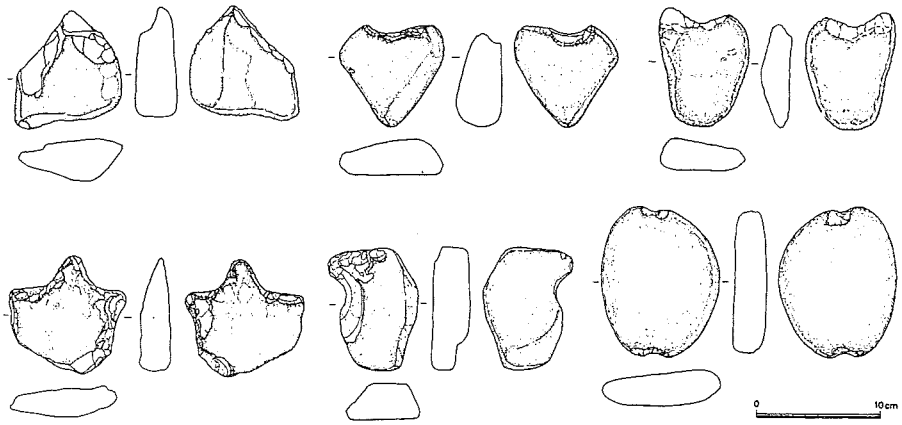
立地

有家町は，島原半島の南東側に位置し，遺跡は海岸部にある。遺跡は有家川下流扇状地南岸の干潟部分に立地し，標高は－３～２ｍの範囲である。この付近の海岸部は，干満の差が激しく，干潮時には200ｍ～300ｍの干潟ができる地域である。付近には縄文晩期を主体とし，礫器や石錐が数百点出土した堂崎遺跡や，西鬼塚支石墓・石棺群などがある。

調査風景

調査

調査区は，５×５ｍを21箇所設定したが，潮の干満に左右され，変則的な調査となった。遺物は縄文晩期の黒川式土器と弥生土器が数点出土したが，いずれも小片であり摩滅していた。この他中世陶磁器として白磁碗Ⅳ類・龍泉窯系青磁碗や近世の陶磁器も出土している。また，調査区外の表面採集品として礫器が多量に採集された。このことは，近接する堂崎遺跡でも同様であり，有明海沿岸の晩期から弥生時代の遺跡の特徴でもある。この地域での礫器の出土については，先に述べたように干満の差が激しいことから，この地域独特の沿岸漁業のスタイルとして発達した石器として捉えることができよう。調査による遺物の出土は少数であったことは，この地域が居住地の範囲というより，貝類の採捕の場所であったことが想定でき，その結果として礫器が全域に表採できると考えられる。



蒲河遺跡出土石器（S＝1／6）

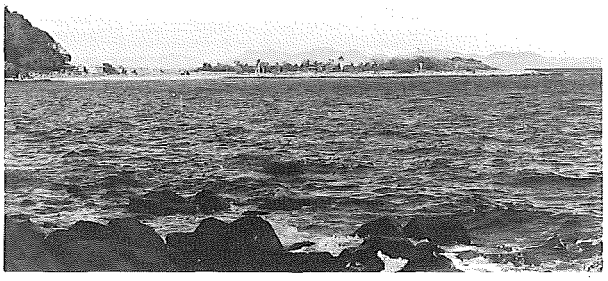
［調査担当：福田・甲斐田］（文責：福田）

㉓ 国崎（くにさき）遺跡

所在地	南高来郡南串山町丙１番地外	調査主体	南串山町教育委員会
調査原因	灯台建設	調査面積	49㎡
調査期間	平成９年５月６日～14日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	38-008

立地

遺跡は橘湾に突き出した国崎半島の先端に形成された，標高５ｍほどのなだらかな砂嘴上に立地する。礫丘は住吉鼻とよばれ，長さ250ｍ，幅100ｍを測る。現状は県立島原半島自然公園として整備されている。



遺跡遠景

調査

今回の調査は灯台の建設に先立つ緊急発掘調査であるが，国崎遺跡の調査事例としては，昭和58年度の遺跡周知事業に伴う分布調査によって発見されたのを始めとして，その後，昭和61年，63年，平成５年，６年と４次にわたって調査が実施されている。

昭和63年の範囲確認調査では，縄文時代中期・後期の包含層が礫丘南部に存在すること，その上を奈良・平安時代の遺物包含層が覆いながら住吉神社付近にまで及ぶことが確認されている。ちなみに，昭和63年の範囲確認調査では，今回の調査区の近くに設定した調査区では，遺物・遺構等の出土・検出はなかった。

平成５年には，遺跡の西にある住吉神社の裏側に航路標識を設置するため，範囲確認調査を実施したが，遺構・遺物の出土はなかった。

平成６年度の調査では，縄文晩期前半の資料が比較的まとまった形で出土している。さらに奈良・平安時代の遺物も出土し，製塩土器も見つかっている。

調査は灯台建設の設計図に合わせ，７ｍ×７ｍの調査区を設定して始めた。人力では動かすのが無理な巨岩が区域内に多数あったために，バックホーにより区域より除去した。巨岩がほとんどであるために土層の形成が全くないわけではないが，弱い。遺構はなく，遺物は土器片が１点出土しただけである。

［調査担当：村川］（文責：村川・古門）

㉔ 辻貝塚（つじ）

所在地	南高来郡加津佐町野田名辻田	調査主体	加津佐町教育委員会
調査原因	福祉施設建設	調査面積	224.25㎡
調査期間	平成９年５月９日～28日	処置	調査後工事
報告書	加津佐町文化財調査報告書第２集『辻貝塚Ⅱ』	遺跡番号	39-005

立地

本遺跡は，長崎県の南東部をしめる島原半島の南端に近い場所にある。小松川と堀川に挟まれた南西方向に向いて伸びる丘陵上の，標高30～40ｍほどの場所で，眼前の早崎瀬戸を見下ろし，海のかなたに天草の島々や野母半島などが望まれる。

調査

平成２年度に，遺跡部分に保育園のプール建設と擁壁の造成工事が行われ，それに伴って土器や石器などの遺物の出土が知られた。このため県文化課による緊急調査が実施され，Ｖ字溝や土壙，柱穴などの遺構も確認された。この調査の結果，この遺跡は弥生時代後期から終末期のものであることがわかり，当時の生活の一端が知られることとなった。

平成８年度の範囲確認調査では，２×２ｍの試掘壙を６箇所予定し，その結果，建設予定地の南側に遺物の包含層と柱穴らしいものを確認した。この年の調査で，平成２年度の調査地点から北東に伸びる遺跡の範囲が確認されることとなった。平成２年度の調査地点から北東に30ｍほどの場所である。

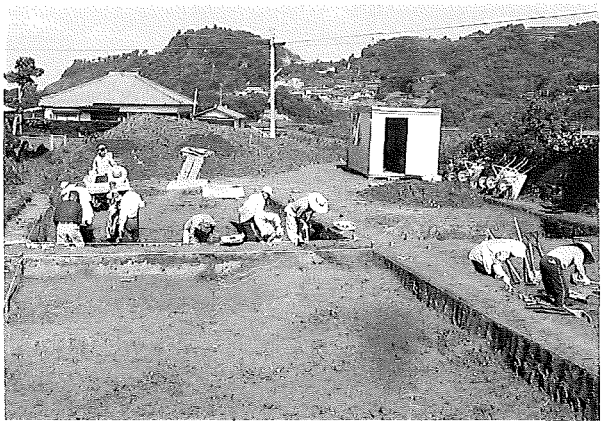
以上の範囲確認調査の結果をふまえ，平成９年度に本調査を実施した。

平成９年度の調査では，明確な遺構は確認できなかったが，調査区の南西側に柱穴状の小さな掘込みが見つかっている。しかし，検出された状況が不規則なことや柱穴にしては大きさに不足する面もあることから，否定的な要素も残る。

出土した遺物は土器類がほとんどで，石器が若干混じる程度である。出土の土器には高杯・脚付甕などが多く，また，海を隔てた肥後地方の影響が大きいように見受けられる。眼前に天草の島々を望む場所に位置する遺跡のあり方からすれば当然とも思える。

また，遺跡の名称を貝塚とするには自然遺物が少なく，遺跡の成り立ちについて不明な点が残る。遺跡全体の状況の把握が望まれる。

［調査担当：藤田・松崎］（文責：藤田）



調査風景

㉕ 長崎奉行所（立山役所）跡

所在地	長崎市立山１－１－12	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	県立美術博物館収蔵庫建設	調査面積	508㎡
調査期間	平成９年６月23日～８月７日	処置	池遺構保存・他埋め戻し
報告書	長崎県文化財報告書第146集 『長崎奉行所(立山役所)跡』	遺跡番号	01-148

立地

長崎奉行所（立山役所）跡は県庁所在地である長崎市立山に所在する。標高は20～30ｍである。長崎市内は江戸時代，天領として栄えたことから万才町遺跡・桜町遺跡・築町遺跡・出島和蘭商館跡など近世の町人の生活や海外との交流を物語る遺跡に恵まれている。長崎奉行所は当初本博多町（現万才町付近）にあったが，後に外浦町（現江戸町・長崎県庁付近）に移された。その後，延宝元（1673）年長崎奉行牛込忠左衛門勝登の時に立山に役所が新設され，立山役所または東役所と呼ばれた。立山役所は長崎における政治の中心地であり，幕末には露・蘭などとの外交交渉の舞台ともなった。

立山役所跡遺構検出状況

調査

調査は収蔵庫建設予定地に20×10ｍのグリッド（１区）を設定し，追加調査の必要性に伴い２～７区の計508㎡を調査した。本遺跡は明治期以降，長崎府庁・長崎外国語学校・長崎県庁等が建てられていたことから，当初遺構の検出は困難とのみかたをしていた。しかし，「長崎諸役場絵図・立山御役所跡」に描かれた池がほぼ当時の姿をとどめて検出された（１区）。池遺構は長さ15ｍ，奥行き５ｍ（推測），深さは最深部で60㎝である。遺構床面には赤漆喰が部分的に残り，３㎝と２～３㎜程の２種類の小石が大量に出土した。また，役所の書院縁側から庭園に下りるための下り石と考えられる石も検出している。また，２区からは土蔵跡と関連する配石遺構が見つかっている。

遺物は池内に投棄された形で発見された。種類としては国産磁器や瓦類が多く，時代的には幕末から明治期を中心としている。雑器が多く，江戸中期頃のものは少ない。ただ，中には長崎奉行をつとめた遠山景晋が寄進した「遠山左衛門尉家中」銘の石灯籠の胴部（文化十年のもの）や17世紀末から18世紀前半と考えられる唐津焼の異形壷（保温具として利用か？）がほぼ完形の状態で出土している。他には戦時中に製造された「防衛食容器」も数点出土している。これは県内における出土報告としては初例である。

まとめ

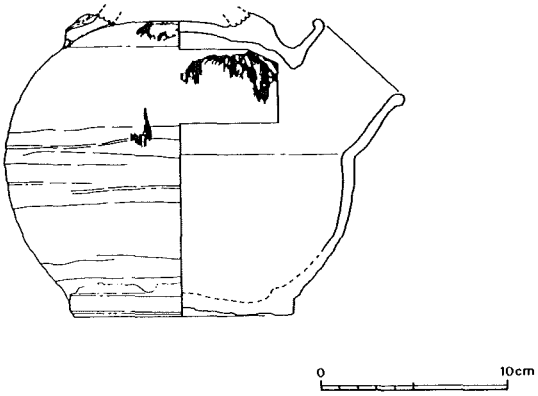
本遺跡の調査における成果としては次の２点が考えられる。

①近代以降の開発により立山役所の遺構が破壊されてきたなかで，今回は池遺構がほぼ完全な形で発掘され，保存が行われ一般に公開されることとなった。

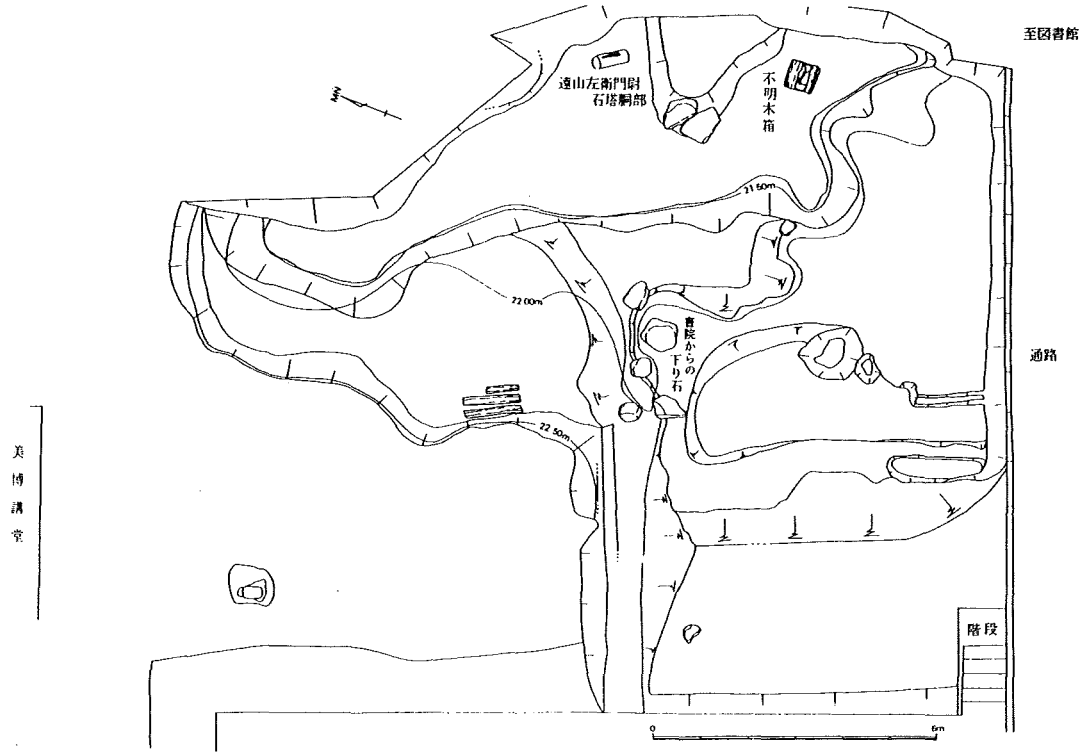
②近世長崎を知る歴史的資料は文献を中心としてきたが，最近は遺跡調査により，更に具体的な長崎の歴史の解明が進んでいるが，本調査も新たな知見の一つたりうる。

［調査担当：村川・小松・宇土］（文責：小松）

唐津焼の異形壺



唐津焼の異形壺実測図

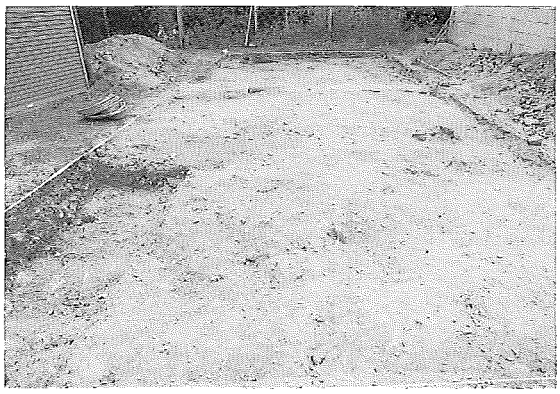


長崎奉行所（立山役所）跡池遺構実測図（S＝1／150）

㉖ 城山（しろやま）城跡

所在地	長崎市城栄町	調査主体	長崎県教育委員会
調査原因	収蔵庫建設	調査面積	50㎡
調査期間	平成９年９月16日	処置	調査後工事
報告書	刊行予定なし	遺跡番号	01-056

立地・調査



調査状況

本遺跡は，長崎市を南北に縦断する浦上川の右岸の河岸段丘上に所在する。標高は40～50ｍである。『日本城郭体系17』によると「城があったと思われるが，詳細不明」となっており，現在も遺構等は残っていない。また，この地は以前より「城山貝塚」としても知られ，『長崎談叢９』には江浪時雄氏が極少量の貝殻・土器破片を発見したとある。そして，『長崎談叢26』では津田繁二氏が大正14年にハイ貝・岩蠣等の貝殻を多数確認していたとある。1982年に刊行された『森貞次郎博士古稀記念論文集』の「日本および韓国における貨泉・貨布および五銖銭について」で岡崎敬氏が報告しているところによると，城山貝塚の所在地内にある護国神社境内で昭和28～29年頃に「貨布」が１枚採集されている。当時は現在よりも約２ｍ標高があり，段々畑になっており貝層中から発見されたという。なお，この貨布は頭部幅５㎝，足部が欠失しているとのことである。これは現在に至るまで長崎県内における貨布の唯一の出土報告である。

以上のように現在は宅地化が進んで全く判らないが，竹ノ久保貝塚などと同様に浦上川流域に弥生人たちの足跡を知ることのできる数少ない遺跡の一つであったことが推測される。

調査は収蔵庫建設予定地内に５×10ｍの調査区を設定し行った。表土を取り除くと地山となっており，旧状からかなり削平されており，遺構・遺物等もなかった。

［調査担当：村川・小松・宇土］（文責：小松）

Ⅲ　平成９年度　長崎県埋蔵文化財発掘届・発見届一覧表

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届		遺跡発見届		発掘調査届		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条２	57条３	57条５	57条６	57条	98条２	
1	津吉遺跡	平戸市	○	○	○				○			C	○						
2	万場遺跡	田平町	○								d	A	○					○	○
3	富の原遺跡	大村市			○						d	B	○					○	
4	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○	d	B	○					○	
5	富の原遺跡	大村市			○				○		d	B	○					○	
6	日野江城跡	北有馬町							○	○									○
7	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	B	○					○	
8	茶園遺跡	岐宿町		○							d	A		○				○	○
9	草積遺跡	平戸市		○							d							○	○
10	城岳城跡	奈留町							○		d	A		○				○	
11	佃遺跡	国見町			○	○	○	○			d	A		○				○	○
12	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○	d	B		○				○	○
13	佐賀館跡	峰町							○		d							○	○
14	蒲河遺跡	有家町		○							d	A		○				○	○
15	国崎遺跡	南串山町		○		○			○		d	A		○				○	
16	金柑茶屋遺跡	平戸市	○	○							d							○	
17	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		d	A		○				○	○
18	原の辻遺跡	芦辺町			○				○		d	A		○				○	○
19	坂口館跡	大村市							○		d	A		○				○	○
20	庄司切遺跡	東彼杵町	○	○								C	○						
21	宮代遺跡	大村市	○	○							d	B	○					○	
22	宮代遺跡	大村市	○	○							d	B	○					○	
23	原山支石墓群（第３遺跡）	北有馬町		○							d	A		○				○	
24	玖島城跡	大村市								○	d							○	○
25	立小路遺跡	大村市		○								C		○					
26	中の原遺跡	平戸市	○	○								C	○						
27	竹松遺跡	大村市		○	○	○			○	○		D	○						
28	下大久保遺跡	平戸市	○	○							d							○	○
29	辻貝塚	加津佐町			○						d							○	○
30	鶴田遺跡	石田町			○						d	A		○				○	○
31	興触遺跡	芦辺町				○	○	○	○		d	A		○				○	
32	興触遺跡	芦辺町				○	○	○	○		d	A		○				○	○
33	鶴田遺跡	石田町			○						d	A		○				○	○
34	鶴田遺跡	石田町			○						d	A		○				○	○
35	大村田遺跡	大村市		○								D	○						
36	栢ノ木遺跡	松浦市		○	○						d	B		○				○	○
37	竜神島遺跡	大村市		○								C		○					
38	大上戸川条里跡	大村市					○	○				D	○						
39	馬乗石古墳	厳原町				○						A		○					○
40	富の原遺跡	大村市			○							D	○						
41	黒丸遺跡	大村市		○								C		○					
42	天神塚遺跡	田平町			○							E				○			
43	曲り第２遺跡	平戸市		○								C	○						
44	山崎遺跡	富江町		○								D		○					
45	大久保遺跡	東彼杵町	○	○								C	○						○
46	宮原遺跡	郷ノ浦町			○				○		d	B		○				○	○
47	牟田Ａ遺跡	松浦市	○	○							d							○	○
48	富の原遺跡	大村市			○						d	B	○					○	
49	黒丸遺跡	大村市		○								C		○					
50	下大久保石棺群	平戸市				○						E				○			
51	原口・山下遺跡	大村市		○								D	○						
52	富の原遺跡	大村市			○							B	○						
53	火除遺跡	平戸市	○	○	○					○		C	○						
54	鴨山池遺跡	田平町		○	○							C		○					
55	赤尾Ｂ遺跡	有川町		○								D		○					
56	平野遺跡	大村市				○						D	○						
57	中尾遺跡	石田町			○			○			d							○	○
58	牟田Ｂ遺跡	松浦市	○	○							d							○	○
59	下中野第一遺跡	平戸市		○							d							○	○
60	湯の先遺跡	石田町				○						A	○						
61	長田遺跡	鷹島町		○		○						B		○					
62	津吉遺跡群	平戸市	○	○	○				○			C	○						
63	黒丸遺跡	大村市		○	○	○			○	○	d						○		
64	日之嶽城跡	平戸市							○			C	○						
65	長崎奉行所跡	長崎市								○	d							○	○
66	風観岳支石墓群	諫早市		○	○						d							○	○
67	風観岳支石墓群	大村市		○	○						d							○	
68	長葉山窯跡	佐世保市								○	d							○	○

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届		遺跡発見届		発掘調査届		遺物
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条2	57条3	57条5	57条6	57条	98条2	認定
69	大上戸川条里跡	大村市					○	○			d	B	○					○	
70	矢櫃遺跡	島原市		○								C		○					
71	黒木城跡	石田町							○			D	○						
72	汚脇遺跡	鹿町町		○							d							○	
73	関里遺跡	鹿町町		○							d							○	
74	興原遺跡	石田町	○		○				○			F		○					
75	西千本松遺跡	平戸市		○								C		○					
76	黒丸遺跡	大村市		○								C		○					
77	桜馬場遺跡	長崎市								○		E				○			
78	富の原遺跡	大村市			○						d	B	○					○	○
79	水ノ元池遺跡	大島村	○	○							d							○	
80	長畑馬場遺跡	大島村	○	○	○						d							○	○
81	礫石原遺跡	島原市		○								B		○					
82	津吹遺跡	島原市		○	○							B		○					
83	中ノ瀬遺跡	松浦市			○				○			D	○						
84	矢櫃池遺跡	松浦市	○	○								D	○						
85	青島遺跡	松浦市	○								d	B	○					○	
86	津崎遺跡	松浦市	○	○							d	B	○					○	○
87	栢ノ木遺跡	松浦市			○						d	B	○					○	○
88	長尾池遺跡	松浦市	○	○								D	○						
89	菰蓋池遺跡	大島村	○	○							d							○	
90	桜町遺跡	長崎市								○	d	A	○					○	
91	長畑遺跡	鷹島町	○	○	○							C		○					
92	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○		d	B	○					○	
93	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○		d	B	○					○	
94	今津遺跡	大村市		○	○							D	○						
95	西浜遺跡	平戸市		○								C	○						
96	寺ノ尾C遺跡	松浦市	○									C	○						
97	黒丸遺跡	大村市		○								C		○					
98	段ノ上遺跡	松浦市	○								d							○	○
99	迎笠下第一遺跡	平戸市		○							d							○	
100	天神塚遺跡	田平町			○						d	B		○				○	
101	富の原遺跡	大村市			○						d	B	○					○	○
102	家の上遺跡	玉之浦町		○	○							C		○					
103	深堀遺跡	長崎市		○	○				○			C		○					
104	福田城跡	長崎市							○			D		○					
105	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○	d	B	○					○	○
106	宇久松原遺跡	宇久町			○							C	○						
107	坂口・内高野遺跡	大村市		○								C		○					
108	帯取遺跡	大村市		○							d	A		○			○		○
109	興触遺跡	芦辺町	○	○	○	○						C	○						
110	津ノ宮遺跡	石田町			○	○					d	B		○				○	○
111	三股青磁窯跡	波佐見町								○	d							○	○
112	水崎遺跡	美津島町							○		d	A		○				○	○
113	小栗C地点遺跡	諫早市			○						d	B	○				○		
114	浜窄遺跡	三井楽町		○								C		○					
115	岳崎遺跡	田平町		○	○							B		○					
116	福良遺跡	平戸市		○							d							○	
117	礫石原遺跡	島原市		○							d						○		
118	沖城跡	諫早市					○					A		○					
119	杉峰城跡	瑞穂町							○			D		○					
120	山ノ寺梶木遺跡	深江町		○							d							○	○
121	石田城跡	福江市								○	d	A		○				○	○
122	西中山遺跡	平戸市	○	○							d							○	
123	上大垣遺跡	平戸市	○	○	○							C	○						
124	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○		d	B	○					○	
125	金田城跡	美津島町					○												○
126	金石城跡	厳原町								○									○
127	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○	○		D	○						
128	桜町遺跡	長崎市								○		E				○			
129	磨屋町遺跡	長崎市								○	d							○	
130	千葉ト枕屋敷跡	大村市								○	d	B	○					○	○
131	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○		d	B		○			○		
132	原の辻遺跡	石田町	○		○				○		d	A		○				○	
133	原の辻遺跡	石田町	○		○				○			C		○					
134	原の辻遺跡	石田町	○		○				○			C		○					
135	帯取遺跡	大村市		○								D	○						
136	釘原遺跡	島原市			○	○					d	B		○				○	

No.	遺跡名称	市町村名	時代別								原因	結果	土木工事届		遺跡発見届		発掘調査届		遺物認定
			旧	縄	弥	古	奈	平	中	世			57条2	57条3	57条5	57条6	57条	98条2	
137	松尾遺跡	国見町	○	○		○					d	A		○				○	
138	長崎街道鳥越一里塚跡	東彼杵町								○	b							○	○
139	篠原遺跡	国見町			○	○					d							○	
140	上篠原遺跡	国見町			○	○					d							○	
141	六ノ坪遺跡	国見町					○				d							○	
142	十園遺跡	国見町			○	○					d							○	
143	前畑遺跡	諫早市		○							d							○	
144	風突谷山畠坂遺跡	諫早市		○							d							○	
145	小田貝塚遺跡	大瀬戸町			○														○
146	戸町番所跡	長崎市								○		C	○						
147	木山の上遺跡	平戸市	○									C	○						
148	原の辻遺跡	石田町	○		○				○			C		○					
149	亀山焼窯跡	長崎市								○		C		○					
150	今津遺跡	大村市		○								D	○						
151	原城跡	南有馬町								○									○
152	佐世保城跡	佐世保市							○			A	○						
153	琴海町戸根郷付近	琴海町																	○
154	クワバル古墳	豊玉町				○					d							○	○
155	大野原遺跡	有明町		○	○						d	A		○				○	○
156	小中野A遺跡	国見町			○	○	○	○				A				○			○
157	小中野B遺跡	国見町			○	○	○	○				A				○			○
158	杉ノ元遺跡	国見町				○	○	○				A				○			○
159	深堀遺跡	長崎市		○	○				○			C	○						
160	山田条里跡	吾妻町					○				d							○	○
161	黒丸遺跡	大村市		○	○	○	○	○	○		b							○	○
162	長戸鬼塚古墳	小長井町				○					d							○	
163	鬼塚古墳	佐世保市				○					d							○	
164	紐差遺跡	平戸市	○	○								C	○						
165	宮ノ浦C遺跡	平戸市		○								C	○						
166	白井川遺跡	東彼杵町		○	○	○	○	○	○			D	○						
167	稗田原遺跡	島原市		○	○	○					d							○	○
168	杉ノ元遺跡	国見町				○	○	○			d	A		○				○	
169	小中野B遺跡	国見町			○	○	○	○				A		○					
170	小中野A遺跡	国見町			○	○	○	○				A		○					
171	原口・山下遺跡	大村市		○								D	○						
172	竹松遺跡	大村市		○	○	○					d	B	○					○	
173	原の辻遺跡	石田町			○						d							○	
174	車出遺跡	郷ノ浦町			○	○			○		d							○	
175	広久保遺跡	江迎町	○	○							d							○	○
176	黒木城跡	石田町							○			C		○					
177	原の辻遺跡	芦辺町			○	○					d							○	
178	岳崎古墳	田平町				○					d							○	
179	大上戸川条里跡	大村市						○			d	B	○					○	
180	車出遺跡	郷ノ浦町			○						d							○	
181	大上戸川条里跡	大村市						○			d							○	
182	双六古墳	勝本町				○					b							○	
183	末永遺跡	佐々町		○								E				○			
184	川久保遺跡	佐々町							○			E				○			
185	串田池遺跡	吉井町		○							d							○	

・一覧表の通し番号は，文書の届出順を基準とする。

・時代については，旧石器時代→旧，縄文時代→縄，弥生時代→弥，古墳時代→古，奈良時代→奈，平安時代→平，鎌倉・室町・戦国時代→中，江戸時代→世としている。

・原因については，a→学術調査，b→遺跡整備，c→自然崩壊，d→開発事業に伴う調査を示す。

・結果については，A→発掘調査，B→範囲確認調査，C→工事立会，D→慎重工事，E→発見届，F→厳重注意を示す。

Ⅳ　平成９年度長崎県内市町村別調査一覧表①

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査原因	調査面積
1	磨屋町遺跡	長崎市諏訪町	長崎市教育委員会	小学校校舎建設	3,000㎡
2	桜町遺跡（天心聖教長崎聖堂）	長崎市桜町	長崎市教育委員会	ビル建設	13.5㎡
3	矢上城跡（赤松城地区）	長崎市田中町	長崎市教育委員会	宅地造成	440㎡
4	手熊遺跡	長崎市手熊町	長崎市教育委員会	資材置場造成	20㎡
5	桜町遺跡（藤田氏宅）	長崎市桜町	長崎市教育委員会	医院併用住宅建設	6㎡
6	桜町遺跡（藤田氏宅）	長崎市桜町	長崎市教育委員会	医院併用住宅建設	300㎡
7	長葉山窯跡	佐世保市三川内町	佐世保市教育委員会	重要遺跡確認調査	400㎡
8	鬼塚古墳	佐世保市宮津町	佐世保市教育委員会	重要遺跡確認調査	15㎡
9	津吹遺跡	島原市津吹町	島原市教育委員会	測溝改修工事	6㎡
10	礫石原遺跡	島原市礫石原町	島原市文化財保護協会	建物建設	88㎡
11	礫石原遺跡	島原市礫石原町	島原市教育委員会	側溝改修工事	6㎡
12	釘原遺跡	島原市宇土町	島原市教育委員会	建物建設	38㎡
13	西常盤遺跡	諫早市正久寺町	諫早市埋蔵文化財調査協議会	工場建設	820㎡
14	風観岳支石墓群	諫早市下大渡野町他	諫早市教育委員会	確認調査	300㎡
15	小栗Ｃ地点遺跡	諫早市小川町	諫早市埋蔵文化財調査協議会	宅地造成	60㎡
16	前畑遺跡	諫早市湯野尾町	諫早市教育委員会	圃場整備	30㎡
17	風突谷山畠坂遺跡	諫早市目代町	諫早市教育委員会	工場建設	40㎡
18	沖城跡	諫早市仲沖町他	諫早市教育委員会	道路拡幅	1,800㎡
19	黒丸遺跡	大村市宮小路３丁目	大村市教育委員会	宅地造成	40㎡
20	黒丸遺跡	大村市黒丸町	大村市教育委員会	資材置場造成	20㎡
21	岩名遺跡	大村市今富町	大村市教育委員会	宅地造成	50㎡
22	黒丸遺跡	大村市沖田町	大村市教育委員会	中学校運動場整備	240㎡
23	黒丸遺跡	大村市宮小路３丁目	大村市教育委員会	個人住宅建設	10㎡
24	富の原遺跡	大村市富の原２丁目	大村市教育委員会	駐車場造成	20㎡
25	富の原遺跡	大村市富の原２丁目	大村市教育委員会	資材置場他	60㎡
26	竹松遺跡	大村市竹松町	大村市教育委員会	共同住宅建設	40㎡
27	宮代遺跡	大村市宮代町	大村市教育委員会	個人住宅建設	10㎡
28	宮代遺跡	大村市宮代町	大村市教育委員会	資材置場	10㎡
29	黒丸遺跡	大村市沖田町	大村市教育委員会	道路改良	14㎡
30	富の原遺跡	大村市富の原２丁目	大村市教育委員会	工場建設他	40㎡
31	大上戸川条里跡	大村市西三城町	大村市教育委員会	アパート建築	10㎡
32	黒丸遺跡	大村市沖田町	大村市教育委員会	駐車場造成	50㎡
33	富の原遺跡	大村市富の原２丁目	大村市教育委員会	工場建設	150㎡
34	風観岳支石墓群	大村市今村町	大村市教育委員会	その他の開発	100㎡
35	黒丸遺跡	大村市黒丸町	大村市教育委員会	店舗及び駐車場	10㎡
36	富の原遺跡	大村市富の原２丁目	大村市教育委員会	宅地分譲	50㎡
37	帯取遺跡	大村市今富町	大村市文化財保護協会	農道整備	300㎡
38	黒丸遺跡	大村市沖田町	大村市教育委員会	苗木の仮植地	50㎡
39	千葉ト枕屋敷跡	大村市桜馬場２丁目	大村市教育委員会	葬祭場建設	330㎡
40	黒丸遺跡	大村市黒丸町	大村市文化財保護協会	下水道工事	30㎡
41	黒丸遺跡	大村市黒丸町	大村市教育委員会	宅地造成他	20㎡
42	竹松遺跡	大村市竹松町	大村市教育委員会	個人住宅建設	10㎡
43	大上戸川条里跡	大村市水主町２丁目	大村市教育委員会	アパート建築	20㎡
44	大上戸川条里跡	大村市水主町２丁目	大村市教育委員会	貸事務所建設他	20㎡
45	黒丸遺跡	大村市沖田町	大村市教育委員会	遺跡整備	150㎡
46	栢ノ木遺跡	松浦市志佐町	松浦市教育委員会	簡易水道新設工事	16㎡
47	牟田Ａ遺跡	松浦市星鹿町	松浦市教育委員会	国営農地再編整備	32㎡
48	牟田Ｂ遺跡	松浦市星鹿町	松浦市教育委員会	国営農地再編整備	76㎡

Ⅳ　平成９年度長崎県内市町村別調査一覧表②

No.	遺跡名	調査期間	調査後措置	主たる調査者	主たる遺構・遺物
1	磨屋町遺跡	９年11月10日～10年３月25日	工事着工	市教委宮下雅史	基礎遺構・近世陶磁器縄文土器など
2	桜町遺跡（天心聖教長崎聖堂）	９年11月17日～11月20日	埋め戻し	市教委扇浦正義	近世陶磁器
3	矢上城跡（赤松城地区）	10年２月24日～３月17日	一部埋め戻し	市教委扇浦正義	なし
4	手熊遺跡	９年４月14日～４月17日	埋め戻し	市教委高田美由紀	なし
5	桜町遺跡（藤田氏宅）	９年４月21日～４月25日	埋め戻し	市教委高田美由紀	なし
6	桜町遺跡（藤田氏宅）	９年10月20日～12月11日	工事着工	市教委高田美由紀	井戸・溝・近世陶磁器
7	長葉山窯跡	９年10月１日～23日	埋め戻し	市教委久村貞男	登窯１基・陶磁器
8	鬼塚古墳	10年２月14日	埋め戻し	市教委久村貞男	旧石器剥片
9	津吹遺跡	９年11月12日	工事着工	市教委土橋啓介	なし
10	礫石原遺跡	９年11月13日～12月10日	埋め戻し	市教委土橋啓介	縄文晩期土器・石器片
11	礫石原遺跡	10年１月７日	工事着工	市教委土橋啓介	なし
12	釘原遺跡	９年12月11日～19日	工事着工	市教委土橋啓介	なし
13	西常盤遺跡	９年１月20日～10月13日	工事着工	市教委秀島貞康	貝塚・縄文土器・土偶
14	風観岳支石墓群	９年８月７日～10月８日	埋め戻し	市教委川瀬雄一	支石墓(箱式石棺)・縄文土器
15	小栗Ｃ地点遺跡	９年11月５日～14日	工事着工	市教委川瀬雄一	筒形器台
16	前畑遺跡	９年11月27日～28日	工事着工	市教委秀島貞康	なし
17	風突谷山畠坂遺跡	９年12月２日～４日	埋め戻し	市教委秀島貞康	縄文・弥生土器
18	沖城跡	10年１月12日～３月31日	工事着工	市教委川瀬雄一	堀状遺構・近世陶磁器
19	黒丸遺跡	９年４月２日～４月９日	工事着工	市教委安部憲毅	中世溝，ピット・土師器皿
20	黒丸遺跡	９年４月23日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
21	岩名遺跡	９年４月７日～８日	工事着工	市教委大野安生	弥生ピット，縄文・弥生土器
22	黒丸遺跡	９年４月11日～14日	工事着工	市教委大野安生	なし
23	黒丸遺跡	９年４月１日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
24	富の原遺跡	９年５月７日～９日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
25	富の原遺跡	９年５月７日～９日	工事着工	市教委大野安生	弥生ピット，弥生土器
26	竹松遺跡	９年５月29日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
27	宮代遺跡	９年５月28日	工事着工	市教委大野安生	なし
28	宮代遺跡	９年５月28日	工事着工	市教委大野安生	なし
29	黒丸遺跡	９年７月24日～28日	工事着工	市教委大野安生	なし
30	富の原遺跡	９年７月30日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
31	大上戸川条里跡	９年８月25日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
32	黒丸遺跡	９年８月25日～９月12日	工事着工	市教委大野安生	縄文・弥生土器
33	富の原遺跡	９年９月４日～10日	本調査実施	市教委安部憲毅	弥生ピット，縄文・弥生土器
34	風観岳支石墓群	９年８月７日～22日	次年度継続	市教委大野安生	なし
35	黒丸遺跡	９年10月13日	開発取下げ	市教委安部憲毅	なし
36	富の原遺跡	９年10月14日～15日	宅地分譲	市教委大野安生	弥生ピット，弥生土器
37	帯取遺跡	９年11月27日～12月16日	工事着工	市教委安部憲毅	弥生～古墳ピット・土器
38	黒丸遺跡	９年12月８日～10年１月７日	工事着工	市教委大野安生	なし
39	千葉ト枕屋敷跡	９年12月15日～24日	工事着工	市教委大野安生	屋敷跡遺構，近世陶磁器
40	黒丸遺跡	10年１月５日～７日	工事着工	市教委大野安生	なし
41	黒丸遺跡	10年１月９日	工事着工	市教委大野安生	なし
42	竹松遺跡	10年２月10日	工事着工	市教委大野安生	なし
43	大上戸川条里跡	10年３月12日	工事着工	市教委大野安生	なし
44	大上戸川条里跡	10年３月12日	工事着工	市教委安部憲毅	なし
45	黒丸遺跡	９年11月６日～10年１月28日	次年度継続	市教委大野安生	縄文～弥生土器，石器類
46	栢ノ木遺跡	９年６月19日～24日	埋め戻し	市教委中田敦之	柱穴，石鏃・弥生土器
47	牟田Ａ遺跡	９年６月24日～７月４日	埋め戻し	市教委中田敦之	石鏃・黒曜石剥片・原石
48	牟田Ｂ遺跡	９年７月15日～８月18日	埋め戻し	市教委中田敦之	黒曜石剥片・原石

Ⅳ　平成９年度長崎県内市町村別調査一覧表③

No.	遺跡名	所在地	調査主体	調査原因	調査面積
49	青島遺跡	松浦市星鹿町	松浦市教育委員会	農道整備	４㎡
50	段ノ上遺跡	松浦市星鹿町	松浦市教育委員会	農道整備	８㎡
51	津崎遺跡	松浦市星鹿町	松浦市教育委員会	農道整備	４㎡
52	栢ノ木遺跡	松浦市志佐町	松浦市教育委員会	圃場整備	44㎡
53	小田貝塚	大瀬戸町雪浦上郷	大瀬戸町教育委員会	確認試掘	57㎡
54	長崎街道鳥越一里塚跡	東彼杵町菅無田郷	東彼杵町教育委員会	遺跡整備	36㎡
55	三股青磁窯跡	波佐見町三股郷	波佐見町教育委員会	町内窯跡群調査	28.3㎡
56	大野原遺跡	有明町大三東戌1382外	有明町教育委員会	文化会館建設	5,000㎡
57	佃遺跡	国見町神代東里	国見町教育委員会	県営圃場整備	4,600㎡
58	松尾遺跡	国見町多比良字松尾	国見町教育委員会	町営圃場整備	920㎡
59	杉ノ元遺跡	国見町多比良字杉ノ元	国見町教育委員会	町営圃場整備	520㎡
60	十園遺跡	国見町馬場名字十園	国見町教育委員会	町営圃場整備	60㎡
61	篠原遺跡・上篠原遺跡	国見町篠原名字下篠原	国見町教育委員会	県営圃場整備	120㎡
62	山田条里跡遺跡	吾妻町大木場名字舞	吾妻町教育委員会	町民体育館建設	80㎡
63	国崎遺跡	南串山町丙ノ番地外	南串山町教育委員会	燈台建設	64㎡
64	原城跡	南有馬町	南有馬町教育委員会	原城跡保存修理事業	400㎡
65	日野江城跡	北有馬町大字谷川名字二ノ丸	北有馬町教育委員会	日野江城跡環境整備	204㎡
66	原山支石墓群（第３遺跡）	北有馬町大字坂上上下名字原堀河	北有馬町教育委員会	縄文の館建設	236㎡
67	殿崎遺跡（周	小値賀町前方郷	小値賀町教育委員会	畑総関係施設建設	42㎡
68	相津遺跡	小値賀町前方郷	小値賀町教育委員会	開発対策遺跡範囲確認	71㎡
69	万場遺跡	田平町深月免	田平町教育委員会	個人住宅建設	４㎡
70	天神塚遺跡	田平町荻田免	田平町教育委員会	圃場整備	16.5㎡
71	里田原遺跡	田平町里免	田平町教育委員会	圃場整備	1,200㎡
72	東荻田遺跡群	田平町荻田免	田平町教育委員会	圃場整備	1,500㎡
73	里田原遺跡	田平町里免	田平町教育委員会	圃場整備	201㎡
74	双六古墳	勝本町立石東触	勝本町教育委員会	しまの拠点町づくり事業	394㎡
75	原の辻遺跡	芦辺町深江鶴亀触	芦辺町教育委員会	県営圃場整備	600㎡
76	興触遺跡	芦辺町湯岳興触	芦辺町教育委員会	県営圃場整備	311㎡

Ⅳ　平成９年度長崎県内市町村別調査一覧表④

No.	遺跡名	調査期間	調査後措置	主たる調査者	主たる遺構・遺物
49	青島遺跡	９年10月６日～７日	埋め戻し	市教委中田敦之	なし
50	段ノ上遺跡	９年10月７日～８日	埋め戻し	市教委中田敦之	黒曜石剥片
51	津崎遺跡	９年10月13日	埋め戻し	市教委中田敦之	台形石器・黒曜石剥片
52	栢ノ木遺跡	９年10月15日～22日	埋め戻し	市教委中田敦之	石庖丁・石鏃・弥生土器
53	小田貝塚	９年11月４日～12日	埋め戻し	県教委村川逸朗	中世陶磁器
54	長崎街道鳥越一里塚跡	９年12月１日～10年１月29日	埋め戻し	町教委下田章吾	幕末～明治の陶磁器
55	三股青磁窯跡	９年10月27日～10年３月31日	遺構保存	町教委中野雄二	窯体・近世陶器
56	大野原遺跡	９年４月１日～12月19日	遺構移設・他埋め戻し	町教委宮川泰男	焼土・縄文土器・石器
57	佃遺跡	９年４月１日～12月26日	工事着工	町教委辻田直人	竪穴住居・土坑墓・弥生土器
58	松尾遺跡	９年11月27日～10年１月31日	工事着工	町教委松崎由紀子	竪穴住居・縄文早期土器・石器
59	杉ノ元遺跡	10年２月13日～３月31日	工事着工	町教委辻田直人	柱穴・溝，古代土師器・須恵器
60	十園遺跡	９年11月４日～12月19日	工事着工	県教委荒木伸也	柱穴・弥生土器
61	篠原遺跡・上篠原遺跡	９年11月４日～10年３月31日	工事着工	町教委辻田直人	柱穴・古代土師器
62	山田条里跡遺跡	10年１月19日～２月３日	埋め戻し	町教委江崎亮太	縄文後～晩期土器
63	国崎遺跡	９年５月６日～14日	工事着工	県教委村川逸朗	縄文遺物
64	原城跡	９年９月24日～12月19日	石垣遺構保存・他埋め戻し	町教委松本慎二	石垣内隅部・瓦・陶磁器
65	日野江城跡	９年８月１日～10年３月30日	階段遺構保存・他埋め戻し	町教委木村岳士	階段遺構・貿易陶磁器
66	原山支石墓群（第３遺跡）	９年５月13日～30日	埋め戻し	町教委木村岳士	突帯紋土器・黒曜石剥片
67	殿崎遺跡（周辺）	９年８月25日～10月10日	工事着工	町教委塚原博	縄文土器・石器
68	相津遺跡	９年10月６日～12月５日	埋め戻し	町教委塚原博	柱穴・須恵器・貿易陶磁器
69	万場遺跡	９年５月21日～23日	工事着工	町教委馬場聖美	特になし
70	天神塚遺跡	９年10月21日～11月	一部保存	町教委馬場聖美・石橋忠治	集石・弥生土器
71	里田原遺跡	９年11月25日～10年３月31日	埋め戻し	町教委馬場聖美・石橋忠治	デポ・ピット・石斧・弥生土器
72	東荻田遺跡群	10年１月６日～３月９日	工事着工	町教委馬場聖美・石橋忠治	柱穴・青磁・白磁
73	里田原遺跡	10年３月12日～31日	埋め戻し	町教委馬場聖美・石橋忠治	杭・箱式石棺
74	双六古墳	９年８月１日～10年３月31日	埋め戻し	町企画財政課中須賀真美	版築遺構・須恵器片
75	原の辻遺跡	９年７月３日～10年１月19日	工事着工	町文化財指導員松永泰彦	旧河道・無文土器
76	興触遺跡	10年１月20日～３月31日	埋め戻し	町文化財指導員松永泰彦	土壙・陶磁器

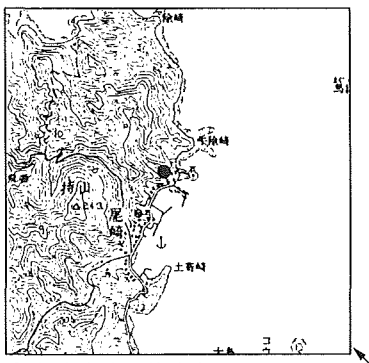
・本表は平成10年４月に実施したアンケート調査に基づいて集計したものである。

・遺跡名については，各市町村で使用しているものを掲載した。

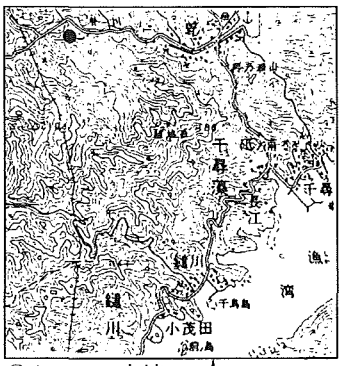
・この一覧表は必ずしも県内市町村で行われたすべての調査を網羅したものではない。

・主たる調査者は１名のみ記した。

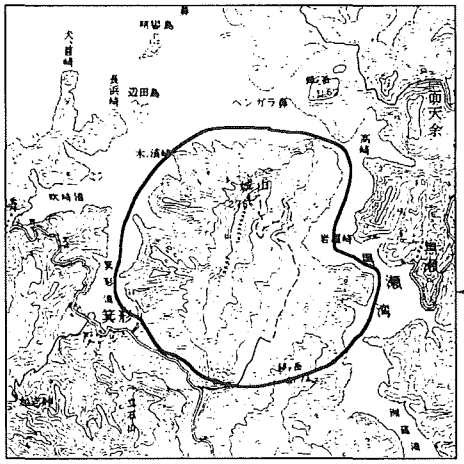
Ⅴ　平成９年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）①



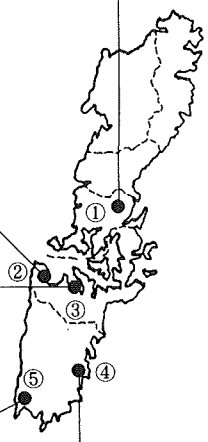
②水崎遺跡（美津島町）

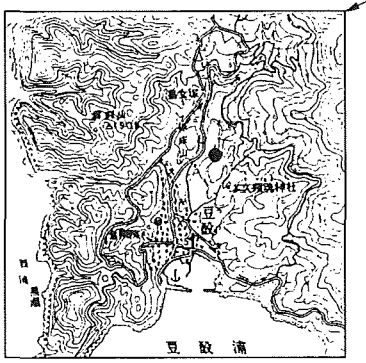


①クワバル古墳

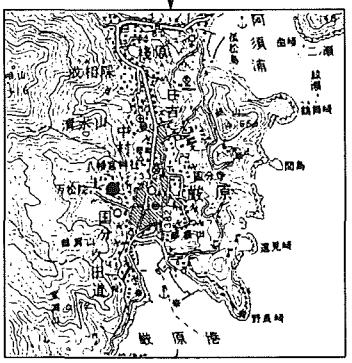


③金田城跡（美津島町）





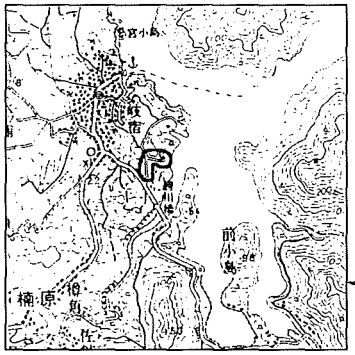
⑤馬乗石遺跡（厳原町）



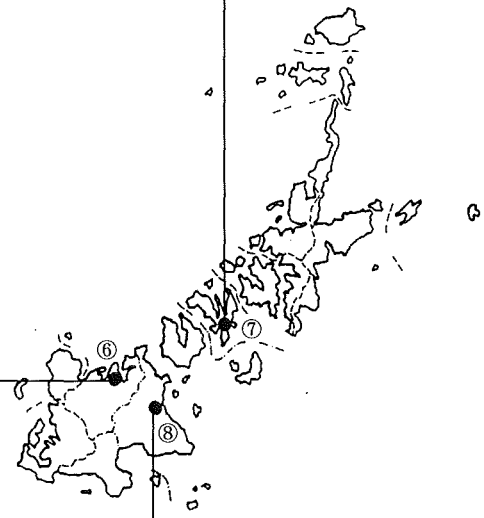
④金石城跡（厳原町）

平成９年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）②

⑦城岳城跡（奈留町）

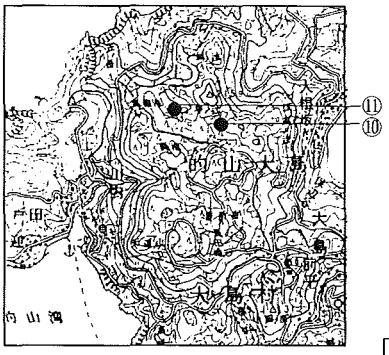


⑥茶園遺跡（岐宿町）

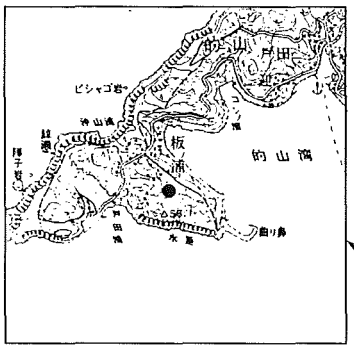


⑧石田城跡（福江市）

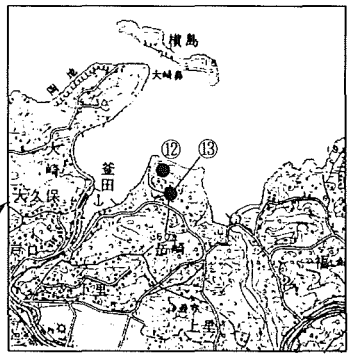
平成９年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）③



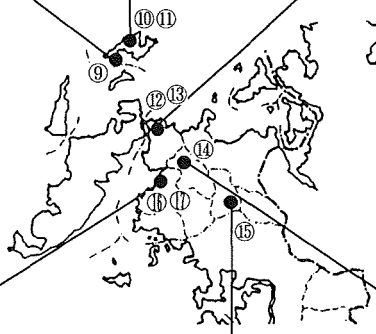
⑩水ノ元池遺跡（大島村）
⑪菰蓋池遺跡（大島村）

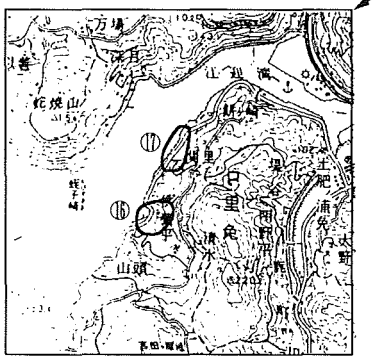


⑨長畑馬場遺跡（大島村）



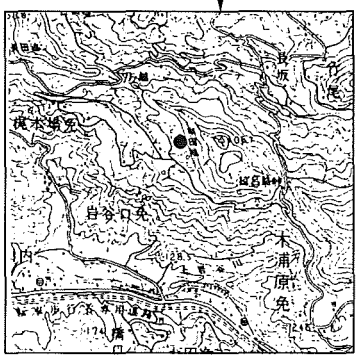
⑫岳崎古墳（田平町）
⑬岳崎遺跡（田平町）





⑯泻脇遺跡（鹿町町）
⑰関里遺跡（鹿町町）

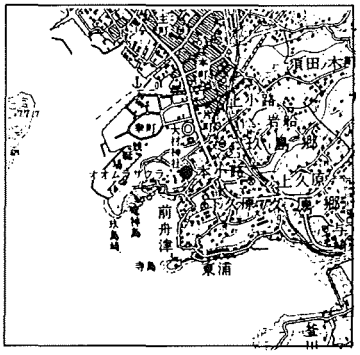
⑭広久保遺跡（江迎町）



⑮串田池遺跡（吉井町）

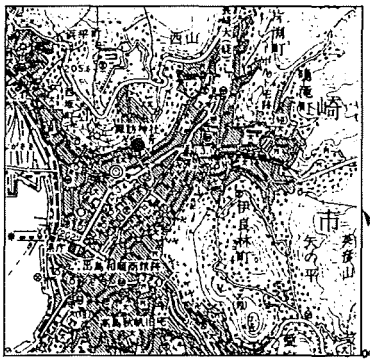
平成９年度長崎県調査遺跡地図（県調査分）④

㉖城山城跡（長崎市）

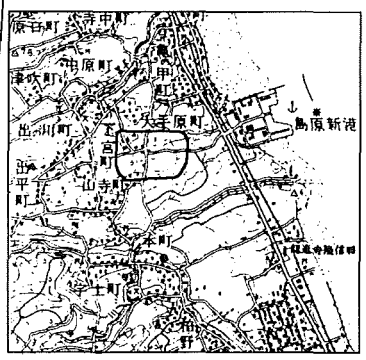


⑱玖島城（大村城）跡（大村市）

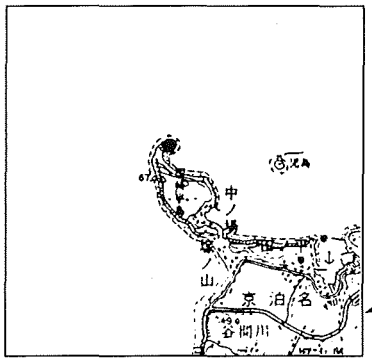
⑳長戸鬼塚古墳（小長井町）



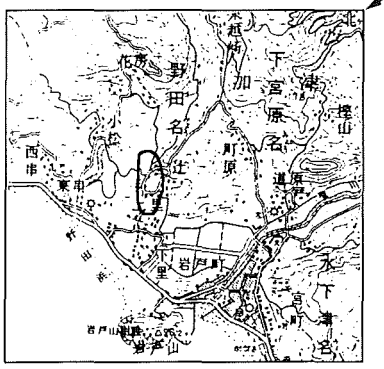
㉕長崎奉行所（立山役所）跡（長崎市）



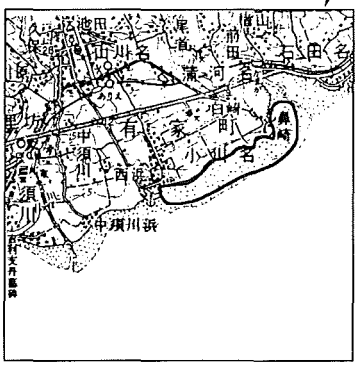
⑲稗田原遺跡（島原市）



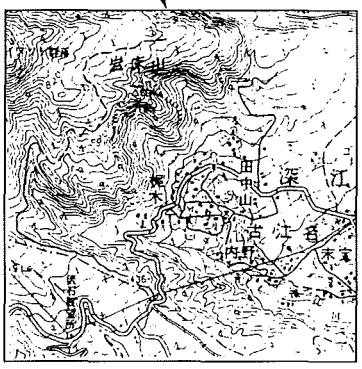
㉓国崎遺跡（南串山町）



㉔辻貝塚（加津佐町）



㉒蒲河遺跡（有家町）



㉑山の寺梶木遺跡（深江町）

報告書抄録

ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう
書名	長崎県埋蔵文化財調査年報6
副書名	
巻次	
シリーズ名	長崎県文化財調査報告書
シリーズ番号	第150集
編著者名	小松 旭
編集機関	長崎県教育委員会
所在地	〒850-8570 長崎県長崎市江戸町2-13 TEL 095-824-1111
発行年月日	西暦 1999年 3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ながさきぶきょうしょ 長崎奉行所 （立山役所）跡 など26遺跡	長崎県 長崎市立山など							

長崎県文化財調査報告書 第150集

長崎県埋蔵文化財調査年報6

（平成9年度調査分）

平成11年3月31日

発行 長崎県教育委員会
長崎市江戸町2-13

印刷 ㈱クイックプリント
長崎市樺島町8番12号